

末日聖徒イエス・キリスト教会・2002年8月号

リアホナ



リアホナ



表紙

ユタ州バーナル神殿、バプテスマフォントの写真／
タムラ・H・ラティータ。
枠内——ヒンクレー大管長の写真／ジェド・A・クラーク。
サモア・アピア神殿の写真／ウィリアム・ホールドマン。



「フレンド」表紙

フォトイラストレーション／クレイグ・ダイヤモンド

一般

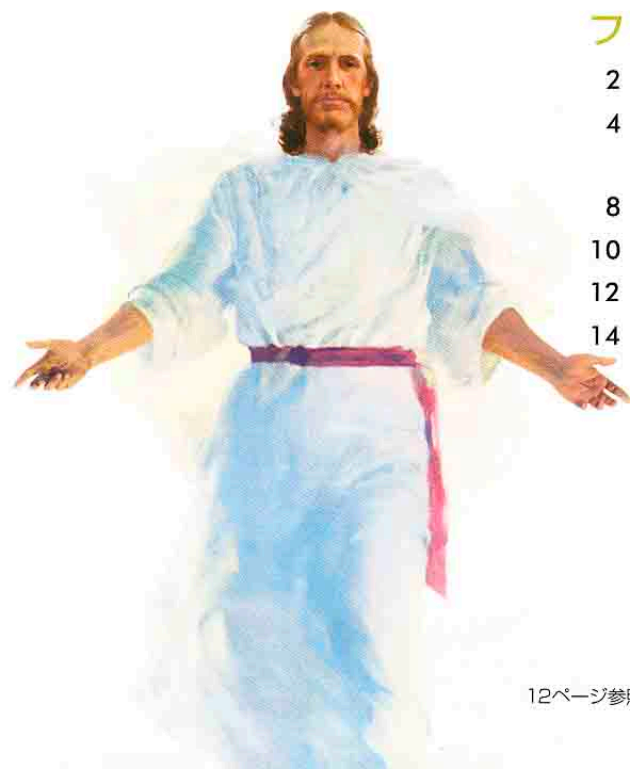
- 2 大管長会メッセージ——主の業のすべて
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 25 家庭訪問メッセージ——奉仕と善い行いから得られる喜び
- 26 道をそれた子どもを愛する 匿名
- 30 神殿の業に関する教義 七十人会長会 デビッド・E・ソレンセン
- 38 死すべき状態を生じた選択 地域幹部七十人 ジェス・L・クリステンセン
- 42 末日聖徒の声——「教会の強さ」
主の預言者 マリア・ソニア・P・アンティケナ
「兄弟と呼んでください」 ホセ・バタラー・サラ
卵、そして愛の贈り物 クラウディア・ウエイト・リチャーズ
- 48 『リアホナ』2002年8月号の活用法

青少年

- 8 友達の力——ニュージーランドの若い女性たち シャナ・ギアズナビ
- 12 知識と強さを得て、賢明に用いる
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット
- 20 リアホナ・クラシック——長老、人々はあなたたちを愛してくれます
リブランド・リチャーズ
- 22 質疑応答——自分がキリスト教徒であることを友達に理解してもらうには
どうしたらよいでしょうか
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 預言者の声——神殿が持つ影響力 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 4 新約聖書ものがたり——パリサイ人としゅぜいにん／
イエス、子どもたちをしゅくふくされる
- 8 ちいさなみんなのために——わたしのおぼえの書 ローリ・スティーブンス
- 10 おもちゃばこ——こうかいの水が分かれた
- 12 分かち合いの時間——「子どもたちの心」 ビッキー・F・マツモリ
- 14 のどのかわき ルーザン・G・ブリッジス



42ページ参照



「フレンド」2ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長: デニス・B・ノイエンスバウダー
顧問: J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウェスト

教科課程管理部責任者

実務運営ディレクター: ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ

編集主幹: マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド
編集副主幹: ロジャー・テリー
編集補助: スーザン・バレット
出版補佐: コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・バン・カンペン
デザイナー主任: シェリー・クック
デザイナー: トーマス・S・チャイルド
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ
制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ケリー・プラット、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウド・E・ワナー
デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン
予約購読スタッフ

ディレクター: ケイ・W・ブリッグス
配送部長: クリス・クリステンセン
マーケティング部長: ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「『リアホナ』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines August. 2002.
Japanese. 22988 300

For Readers in the United States and Canada:

August 2002 no. 8. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



あきらめずに前進する

2000年6月号の『リアホナ』(英語版)は、わたしにとって、とても大切な号です。中でも「確信を放棄してはいけない」というジェフリー・R・ホランド長老の力強い記事は、特に意義深いものです。とりわけ福音から力や慰めを得たときに、この号を繰り返し学ぶようにしています。ホランド長老が言わんとすることをじっくりと心の中で味わう度に、どんなに苦しいときにもあきらめずに前進することができるのだとはっきり分かります。

ナイジェリア・ラゴスステーク、
オココマイコ支部
エクボ・アキバ

神殿の祝福に備える

わたしはフィリピンに住んでいます。ですから総大会が開かれる場所からは遠く離れています。しかし『リアホナ』(英語版)のおかげで、中央幹部のメッセージをすべて読むことができます。どの話もととてもすばらしいと思います。

特に、2001年7月号の「神殿の祝福を受けるための個人の備え」というラッセル・M・ネルソン長老の説教は、とてもためになりました。わたしはマニラ神殿に行くのが大好きです。現在、自分自身のエンダウメントを受けられるように準備をしています。神殿のすべての儀式を受け、聖約を守るならば、いつの日か天の御父とイエス・キリストとともに住むことができると知っています。

フィリピン・イバ地方部、

リオソン支部

ジョン・マーク・A・カブレラ



絶えず善を行おうと努める

『リアホナ』(スペイン語版)に心から感謝しています。『リアホナ』は靈感と力の源です。わたしたちの羅針盤となるように、母国語のスペイン語で読めるようにくださった指導者の方々に感謝いたします。2001年6月号に掲載されているスペンサー・J・コンディー長老の「絶えず善を行う性質」という記事を読む度に、わたしは勇気をもってさらに善い行いを積み重ねようとして心が奮い立ちます。

ベネズエラ・グアヤナステーク、
ウバタ支部
ホセ・ルイス・グリョ・ブリエト

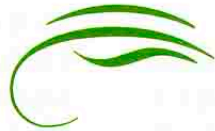
ヒンクレー大管長の話に感謝します

2001年7月号の『リアホナ』(スペイン語版)に収められた美しい説教の数々に感謝しています。どれを読んでも御霊を強く感じます。また御霊がこの教会が真実であることを強く証してくれます。中でも、より良い教会員となるよう求めるヒンクレー大管長のメッセージにほんとうに感謝しています。

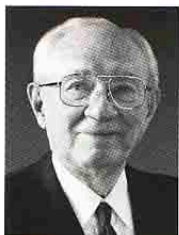
ペルー・タララ地方部、
タララ支部
マルティン・バリエンテ・ニエベス



主の業の すべて



大管長 ゴードン・B・ヒンクレー



何年も前に、わたしのところに届いた1通の手紙を抜粋してご紹介いたします。ただし、差出人が分からないように名前を変え、一部を省略、あるいは表現を変えてあります。手紙にはこう書いてあります。

「愛するヒンクレー副管長へ

病院のエレベーターの中であなたにお会いしたとき、ぜひあなたに手紙を書いて、わたしが人生で経験してきたことをお知らせしたいと思いました。

わたしは16、7歳のころ、教会に対してまったく無関心で、一切かわろうとしませんでした。しかし、わたしのことを心配していた監督がある日訪ねて来て、教会主催のミュージカルの大道具作りを手伝ってくれないかと言いました。もちろんわたしは断りました。

それから10日ほどたってからでしょうか、監督が再びやって来て、大道具作りを手伝ってくれと言いました。わたしはそのときも断りました。しかし監督は説明を続けました。ほかの人たちにも頼んでみたが、作り方を知らないのだれもが言ったとのことでした。そして、『どうしても君の力が必要なんだ』と言うのです。わたしはついにその責任を引き受け、大道具作りに取りかかりました。

出来上がるとわたしはこう言いました。『大道具は完成しましたよ。』これで自分の責任は終わったと思いました。ところが、監督はまだわたしの力が必要だと言いました。舞台の上で大道具を動かしたり設置したり、さらに、ワードを回って上演するときには慎重に移動したりする必要がある

からです。最後には再び手を貸すことに同意しました。

その監督のおかげで、わたしはしばらくの間、忙しい時を過ごしました。そして間もなくわたしは皆と打ち解け、作業を楽しんでするようになりました。やがて監督は引越し、新しい監督が召されました。そして彼もわたしにチャレンジを与えて見守ってくれたのです。

わたしはスミス監督から伝道に出るように言われていましたが、まだ決心がつかないでいました。新しく召されたソレンセン監督も同じことを言いました。そして、ついにわたしは伝道に出ることを決意しました。

監督とわたしは、父と母にそのことを話しました。両親は伝道の費用を賄えないと言いました。父は監督に、もしわたしがほんとうに行きたいのなら、自分で働いて伝道資金をためるべきだと言いました。

御存じのように、わたしは視力がとても弱かったので、どこへ行くにもだれかに連れて行ってもらわなければなりません。わたしは16歳になると何よりも車を運転したいと思い、父に連れられて何軒かの病院を回りましたが、どこでも結果は同じでした。視力は右目が0.025で、左目が0.4、それに乱視が入っていました。ですから伝道に出るために十分な資金をためるのは容易なことではありません。わたしはデパートの中にある看板請負店で6か月から8か月働いて貯金しました。やがて監督はわたしが伝道に出る時が来たと判断し、わたしたちは再び両親と話をしました。貯金は1,000ドルありました。監督は父に、残りは長老定員会が援助しますと言いました。すると腰かけたまましばらく黙っていた父がこう言いました。『ほかの人に

自分の息子を援助していただくわけにはいきません。残りはわたしが出します。』こうして、わたしは書類を作成し、召しを受けました。

日本に召されたわたしは、日本人を愛し、そこで宣教師としてすばらしい経験をしました。同僚とわたしは何人かの人にバプテスマを施して教会に導きました。伝道から帰ると、再び看板請負店で働きました。そこで働いているとき、昼食に出かける度にいつも通りで見かける若い女性がいました。同じ地域で働いているようです。どこかで会ったような気がしましたが、思い出せませんでした。

そのころ、伝道中の同僚の一人が伝道から帰って来ました。しばらくしてから、わたしたちは一緒にあちらこちらへと出かけるようになりました。もちろんわたしは目が悪かったので、車の運転はいつも彼の役でした。ある晩のことです。彼と一緒にダブルデートに行こうと電話をかけてきました。それでわたしはデートの相手を探すために大変な苦勞をしました。わたしたちはパーティーに行きましたが、彼が連れて来た相手はだれだと思えますか。そうです。日本にいたことのあるマリリン・ジョーンズ姉妹です。わたしは日本で1度だけ彼女に会ったことを思い出しました。数か月の間、道で会いながら、どうしても思い出せなかったあの女性です。

このパーティーの後で、わたしは2週間、家族と一緒にカリフォルニアへ出かけました。そして家に帰ると、例の友人が、わたしがパーティーに連れて行った女性とデートをしていることを知りました。わたしは彼に仕返しをするつもりで、マリリンをデートに誘いました。車の運転ができないことがどんなに大変なことかお分かりでしょうか。わたしは妹に車の運転を頼み、ほかに8人の子どもたちを連れてフットボールの試合を見に行っただけです。これでは若い女性であればだれだって、二度とわたしとはデートをしたくないと思うでしょう。しかしわたしは、家族が溪谷にチョークチェリーの実をとりに行くとき、もう一度彼女を誘ってみました。

やがて二人だけでデートをする日が訪れました。父がわたしを乗せてマリリンを迎えに行き、それから父を家まで送り、二人でデートに出かけます。そして帰りにはわたしの家に寄り、父に運転してもらって彼女を家まで送り、そ

れからようやく自分たちの家に戻るのです。その次のデートでわたしは彼女に結婚を申し込みましたが、断られました。そこでデートを重ねてから、さらに2回ほど結婚を申し込みました。そして、もう一押しすれば何とかなるといふ確信を得たのです。わたしは自分の選択に間違いはないと考え、頑張り続けました。デートを始めてから6か月後、わたしたちはヒンクレイ長老の司式の下にソルトレーク神殿で結婚しました。

ヒンクレイ長老、わたしはその当時も彼女を愛していると思いましたが、17年後の今、その愛が自分でも想像できなかったほどに強いものとなっていることが分かります。我が家には現在、5人のすばらしい子どもがいます。

わたしは教会でたくさんの責任を果たしてきました。音楽指導者、長老定員会のすべての責任、ワード書記補佐、伝道主任、幹部書記、そして今は副監督を務めています。

わたしは今もデパートにある看板請負店で働いています。13年ほど前に小さな家を買いましたが、家族が多くなったので、随分狭くなりました。何とかしなければと思い、家を増築して2倍の広さにすることにしました。そして3年少し前から作業を始め、以来ずっと取り組んできました。すばらしい出来栄です。

ところで、驚くようなニュースがあります。2年前の6月に、新しい眼科医から目の検査を受けたとき、運転免許証にはどのような条件がついていますかと尋ねられました。わたしが免許証は持っていないと答えると、その医者は、あなたの視力なら恐らく大丈夫ですと言いました。

わたしは驚きのあまり座り込んでしまいました。妻が『夫が運転免許を取得できるということですか』と尋ねると、医者は『もちろんです』と言いました。翌日、妻はわたしを自動車免許の教習コースに登録させました。コースを修了したわたしは免許証を受け取りに行き、そこで視力を調べられました。わたしは医師から視覚障害の状態と、夜間は運転しない方がよいという内容を記した診断書をもっていました。検査官が指し示した文字をわたしは正しく読み上げました。その検査官は責任者と相談して戻って来ると、わずかな制限を加えただけの免許証を発行してくれました。

ヒンクレイ長老、主は身に余る祝福を与えてくださいま

した。人々は、わたしの目がそこまで良くなったのはほんとうに幸運なことだと言います。しかしわたしは、主がそうしてくださったことを知っています。わたしがこれまで主に仕えようと努力し、地上に主の王国を築くために全力を尽くしてきたので、祝福してくださったのだと思います。主

**わたしたちには、自立し、
幸福な家庭を営み築く責任があります。
父親と母親が互いに愛し尊敬し合い、
子どもたちが平和と愛情、感謝の中で
成長できるようにするのです。**



がわたしに失望されることもあると思います。必ずあると思います。しかし、わたしは全力を尽くすよう努力し、主がわたしや家族に下さる祝福にふさわしくなりたいと思います。』

手紙の最後には感謝と証^{あかし}が記されており、その下に彼のサインがあります。この長い手紙をご紹介したのは、この手紙が素朴ながらも雄弁に主の業について語っていると思ったからです。

わたしたちの責任

人の心を動かさずにはおかない主からの信頼の下で、わたしたちイエス・キリストの教会の会員は贖^{あがな}いの業に携わっています。それは、助けを必要としている人々を引き上げ、救うという業です。また、自分が大きな可能性を持っていることに気づかない人々の目を覚まさせる仕事です。わたしたちには、自立し、幸福な家庭を営み築く責任があります。父親と母親が互いに愛し尊敬し合い、子どもたちが平和と愛情、感謝の中で成長できるようにするのです。

今ご紹介した手紙を思い返してみてください。この男性は16、7歳のころ、目的のないままに押し流され、同年代の多くの若者と同じように、危険な状態にありました。滅びに至る広い道を歩んでいたのです。そのことに気づいた監督は、この監督は祈りをもって献身的に働く人ですが、彼の芸術家としての創作的才能を認めて、教会での奉仕に生かすようにチャレンジするという方法を思いつきました。この賢明な監督は、ほとんどの若人は自分が必要とされていると感じるときにチャレンジにこたえることを知っていました。ワードの中には、監督が求めているような大道具を作れる技量のある人はいませんでした。しかし、教会活動にあまり活発でなかったこの少年は、それができる有能な人物でした。そこで監督は彼の才能を認め、どうしても彼の協力が必要であることを強調しながらチャレンジを与えました。

ここに、道からそれてしまった多くの人々を活発化する重要な鍵^{かぎ}があります。だれでも人の役に立てる才能を持っています。その才能をどこに生かすかを考え、チャレンジを与えるのが、指導者の責任です。この手紙の少年の

名前をかりにジャックとしましょう。ジャックはチャレンジにこたえました。そして、やがて教会から遠ざかるのではなくむしろ教会の指示の中で活動している自分に気づきます。

それから伝道のチャレンジが与えられました。そのときには、申し出に対して拒むよりも受け入れるようになっていたジャックは、肯定的な返事をしました。父親は完全に改心しておらず、ジャックが自分で伝道資金を蓄える必要があると答えました。もっともなことでした。自立心を培うことを求めているからです。ジャックは働いて貯金をし、必要な資金をできるかぎり自分で賄いました。1,000ドルたまったとき、再び靈感を受けた監督は、ジャックが伝道に出る時が来たと思いました。不足分は長老定員会の兄弟たちが援助することになりました。これも適切なことです。しかし父親は自尊心と息子に対する責任感から、ここぞというときには、たいいていの人々がそうであるように、援助を買って出ました。

福音の本質

わたしが日本で初めてジャックに会ったとき、彼は宣教師として伝道中でした。わたしは彼と2、3度面接する機会がありました。そのころはまだ、宣教師訓練センターなどありませんでした。ですから宣教師は言語の訓練を受けずに任地に派遣され、到着したそのときから伝道活動を始めました。わたしは、重い視覚障害のあるこの若者が日本語のような難しい言語を理解し、力強く語ることができるのを見て、驚きました。その陰には、大変な苦勞と献身とがあり、何にも増して、謙遜^{けんそん}さと、ひたすら助けを請うという主に対する信頼がありました。

わたしは実際にこの目で見ても、多くの人々の場合と同様に、彼の場合も奇跡が起こったことを証します。

わたしは、後にジャックと結婚した若い女性とも日本で初めて会い、その後、何度か面接をしました。彼女はすばらしい霊性と深い信仰の持ち主で、責任感の強い人でした。伝道中に二人が顔を合わせたのは、わずか1度だけでした。二人は遠く離れた地域にいたからです。しかし二人には、互いの経験から得た共通の試金石がありました。それは新しい言語です。天の御父の子どもたちに伝道す

るという偉大な、自己を忘れた業に従事する間、証を述べるために二人が学んだ新しい言語です。

手紙にもあったように、わたしは二人の結婚式の司式をするように頼まれました。式はソルトレーク神殿で執り行われました。二人とも、聖なる神権の権能の下にこの世と永遠にわたる結婚ができる所は主の宮をおいてほかになく、その聖約は死をもって終わることも、時の流れによって効力が失われることもないと知っていました。二人は最善のものを求めました。ですからほかの何をもってしても満足できなかったと思います。そして、主の宮で交わした神聖な聖約を互いに忠実に守ってきました。立派なことです。

結婚して、二人は5人のかわいい子どもに恵まれました。彼らは、互いに愛と感謝と尊敬の念を抱く家族です。彼らは自立の精神をもって生活してきました。増築した質素なこの家では、親子がともに集い、互いに助言し、学び合っています。聖文を読み、家族の祈り、個人の祈りをささげ、奉仕についての教えと模範が示されているのです。それはつましい家庭、謙遜な家族です。裕福ではありませんが、平安と優しさ^{くんとう}と愛にあふれています。子どもたちは「主の薫陶と訓戒」の中で成長しました(エペソ6:4)。父親は忠実に教会の責任を果たしています。何年もの間、与えられたあらゆる召しにこたえてきました。母親も同様に召しを果たしてきました。彼らは地域社会、また国家の善良な市民であり、隣人と仲良く暮らしています。主を愛し、人生を愛し、互いに愛し合っています。

そして、彼の視力が向上するという奇跡を経験しました。これは慈悲深い神の恵みによるものです。これも福音の本質の一つです。神の存在を認め、感謝することに伴う癒^{いや}しと回復の力です。

活発化のためのいっそうの努力が求められている

これが主の業のすべてではないでしょうか。救い主はこう言われました。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ10:10)この世のものには恵まれなくても、このわたしの友人たちは豊かな生活をしています。彼らのような人々こそ教会の力なのです。彼らの心には、穏やかながらも微動だにしない確信があります。「神は生きておられる」「わたしたちは神に対して



**わたしたちが携わっているこの業は、偉大な贖いの業です。
わたしたちは皆、もっと努力しなければなりません。
なぜなら、さらにすばらしい
永遠の成果を得ることができるからです。**

責任がある」「イエスはキリストであり、道であり、真理であり、命であられる(ヨハネ14:6参照)」「この業は御父と御子の業であり真実である」「喜びと平安と癒しは、教会の教えの中で述べられているように、神の戒めに従って歩むときにもたらされる(教義と聖約89:18参照)」という確信があるのです。

ジャックの二人の監督が、彼の身に起こったことを知っているかどうかは分かりませんが、もし今の彼について知ったら、きっと心地よい満足感を覚えることでしょう。そのような監督が何千人もいて、活発化という偉大な業に日夜努めているのです。そして、この教会にはジャックのような人が何万人もいて、深い関心や穏やかに示される愛、監督やほかの人々からの奉仕のチャレンジによって、心を動かされ、教会に再び活発に集うようになっているのです。しかし、そのような関心を必要とする人はほかにも大勢います。

わたしたちが携わっているこの業は、偉大な贖いの業です。わたしたちは皆、もっと努力しなければなりません。なぜなら、さらにすばらしい永遠の成果を得ることができるからです。これは御父の業です。天の御父はわたしたちに、困っている人々や弱っている人々を探し出して力づけるように命じておられます。わたしたちがそうするとき、人々の家庭は豊かな愛で満たされ、国家はそれがどこであろうと、人々の徳によって強められるでしょう。そして教会と神の王国は、神の定められた使命を果たすべく、威厳と権威をもって進み行くことでしょう。□

ホームティーチャーへの提案

1. わたしたちは、贖いの業に携わっています。それは、助けを必要としている人々を引き上げ、救うという業です。また、自分が大きな可能性を持っていることに気づかない人々の目を覚まさせる仕事です。
2. この教会には、深い関心や穏やかに示される愛、奉仕のチャレンジによって、心を動かされ、教会に再び活発に集うようになった人々が何万人もいます。
3. わたしたちの関心を必要としている人々を助けるために、わたしたちは皆、もっと努力しなければなりません。

友達の力

ニュージーランドの若い女性たち

良い友達になること、
それは時に、良い宣教師に
なることでもあります。

文・写真／シャナ・ギャズナビ

ジャスリン・シンブソンは若い女性が二人だけというビーハイブクラスで、信仰を行動に移しました。ニュージーランド・ウェリントンステーク、クロフトンダウンズワードで、ビーハイブのアドバイザーが伝道のレッスンの一環として友達を教会に招待するようにという課題をクラスに与えました。ジャスリンはそれを実行しようと決心したのです。

ジャスリンは言っています。「わたしはエーミーの生活には何か足りないものがあることに気づいていました。それで、福音を紹介しなければと思ったのです。」ジャスリンの小さな愛の行いは、親友であるエーミー・バレンタインの生活を大きく変えるきっかけとなりました。一度誘われてすぐにエーミーはジャスリンと一緒に教会にきました。それから2か月間、ジャスリンが家族とともにオーストラリアのシドニーに引っ越すまで、エーミーは日曜日の集会と週日の夜の活動にずっと出席しました。

エーミーはこう言います。「わたしは

キリスト教の教えはまったく受けていませんでした。お祈りの仕方何もう知らなかったんです。でも、ジャスリンの家族が引っ越す前に、彼女たちがいなくても教会には続けて行こうと決めました。そのころには、教会でほかにも知り合いができていました。」

その中の一人がクロフトンダウンズワードのビーハイブでもう一人の会員だったミシェル・プロチェックです。ミシェルはエーミーを、自分の家で宣教師から福音を学ぶように誘い、エーミーは両親の許可を得て、13歳でバプテスマを受けました。5年前のことです。

でも、エーミーが教会に慣れるまでの道のりは楽ではありませんでした。「バプテスマに向けて準備している間もバプテスマの後も、しばらくはなかなか順応できませんでした」と彼女は言っています。家族や友達が教会員でなかったにもかかわらずエーミーが福音から離れずにいたのは、ミシェルの友情と愛の助けがあったからでした。「ミシェルはすばらしい模範です。それが、わたしにいちばん大きな力でした。」エーミーはそう話してくれました。

ミシェルは言います。「こういうことはいつもしていたことです。エーミーが教会に入るからいつもと違うことをしたというわけじゃありません。」

ミシェルは模範になること、特に、求道者や新しい会員を強めるために模範となることの大切さを理解しています。「自分の証と自分自身を強めるために努力してください。そして、小さな行いが持つ影響力に気づいてください。」彼女はそうアドバイスしてくれました。

エーミーとミシェルは互いに相手からたくさんの力を得ています。また、強い証も持っています。二人は頻繁に、自分たちの証を書いたモルモン書を人に上げています。

家庭の愛

福音に対する強い証があっても、エーミーにとって家族の中で自分独りが会員であることは大変なことです。学校の友達とは福音を分かち合うことができたが、家族にはそれがもっと難しいのです。彼女はこう言います。「わたしは両親を模範として頼りにしています。ですから、両親に福音について詳しいことを話そうとすると、立場が逆転したようになるんです。」

家族の中にほかに教会員がいないことで、エーミーにとって神殿結婚という目標はとても大切なものになりました。福音の中で堅固な家庭を持つこと、そして、家族の聖文学習や家庭の夕べなど、今はできないことを全部実行する

友達から教会を紹介された
エーミー・バレンティン(右)は、
ミシェル・プロチェック(左)に
支えられ、友達を作りました。



のが彼女の望みです。

キリストのような愛

エーミーは家族に福音を伝えようと努力を続けています。そして、彼女の模範と教会での活動が、いつか家族に影響を与えるようになることを願っています。よく祈り、若い女性のプログラムから力を得て、活発に活動しています。

今、エーミーはローレルです。自分を

もっとキリストに近づけてくれる徳質のプロジェクトも選びました。「今年はイエス・キリストをもっとよく知るように、ほんとうに一生懸命頑張っているんです。」彼女はそう話してくれました。主をよく知ることが主に似た者になることにつながると知ったエーミーは、聖典を使ってキリストの特性を思いつくかぎりすべてリストアップしてみました。信仰、慈愛、寛容などが思いつき、リスト

に挙げた特性を一つずつ伸ばしていこうと努力しています。

同じような状況にいる人たちに、彼女はこうアドバイスしてくれました。「一生懸命、ほんとうに一生懸命、勉強してください。」彼女は力を込めて言います。「自分自身で福音に対する証と理解を得てください。これはあなたの責任なので、人には頼らないでください。いつも天父に頼ってください。天父はあ



なたに必要な理解力と祝福を与えてくださいます。』

愛の実践

エーミーの生活は愛の実践です、とワードの若い女性は全員口をそろえて言います。「みんなが、エーミーのような福音に献身的な友達を持ちたいと思うのは当然です。エーミーは福音を愛しているんです。」若い女性から扶助協会

に移ったばかりのケリー・バターズはこう話してくれました。

友達が伝えてくれたおかげで福音の賜物にあずかったエーミーは、自分も福音をだれかに伝えなくてはいけないと感じています。彼女とミシェル、そしてステーキのほかの若い女性たちは、これまで人々に福音を伝えようと努めてきました。そして、これからも福音と自分たちの証を分かち合っていきます。

ジャスリンの5年前の小さな信仰の行いは、エーミーの生活の隅々に影響を及ぼしました。そしてその行いは、エーミーの模範と証という形でほかの人々の生活に祝福をもたらし続けています。

□

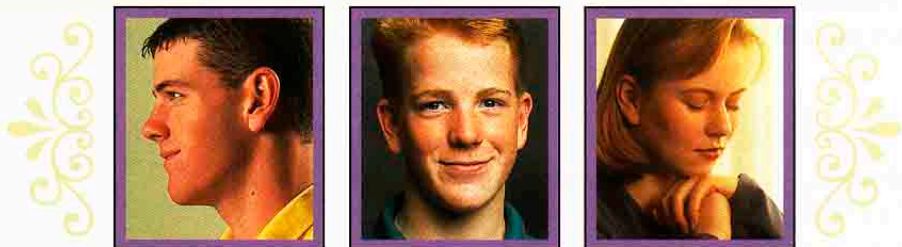
今、エーミー(左から二人目)、
ミシェル(中央)、
そしてステーキの
ほかの若い女性たちは
福音と証を
分かち合っています。



皆さんへの 勧め

「これから1年の間に、一人の若い女性に手を差し伸べて、教会に活発になるよう力を尽くしていただきたいのです。あまり活発でない少女や最近改宗した若い女性、教会員でない人を、きっと皆さん一人一人が知っているはずです。一人の若い女性に手を差し伸べて、イエス・キリストの福音を分かち合うようお願いします。……考えてみてください。皆さん一人一人がこの呼びかけにこたえて、手を差し伸べ、ただ一人を迎え入れることができれば、来年は2倍の活発な若い女性がいることになるのです。努力するとき、聖なる御霊の導きを求めてください。何をどのようにしたらよいかについて、皆さんの両親や指導者が助けてくれます。」——中央若い女性会長マーガレット・D・ナドル(「慰め主、導きを与え、証される御方」『リアホナ』2001年7月号、111)□

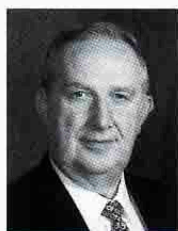
知識と強さを得て、 賢明に用いる



わたしたちは**耳を傾け、見る**ことによって、そして特に御霊の促しにより**感じる**ことによって非常に大切な事柄を学ぶことができます。

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット



わたしはこの話を通して、皆さんが実り多い生活を送り、大きな喜びと幸せを得られるようお手伝いしたいと思います。すでにそのような喜びにあふれる生活をしているのであれば、わたしのメッセージは皆さんがすでに学んで応用する特権を得ている事柄を確認するために役立ててください。まだそのような状態に到達していなければ、安定した永続する幸福を見いだすうえで役立つ幾つかの真理を提案したいと思います。

最初に、一つの原則をご紹介します。この原則を理解して、着実に実行していくならば、生涯を通じて大きな祝福にあずかることでしょう。それは、わたしが説明するうえでも、皆さんが理解するうえでも、さほど難しい原則で

はありません。けれども、この原則に秘められている力を最大限に発揮させるには、確固とした決意の下に相当な努力を傾ける必要があります。この原則を通して皆さんは数々の大切な真理を学ぶことができます。それらはより大きな、永続する幸福を招き、また実りと意義のある人生を約束するものです。

わたしは聞いて、見て、感じることによって学ぶために、絶えず努力する。

わたしは学んだ大切な事柄を書き留めておき、実践する。

皆さんは**耳を傾け、見る**ことによって、そして特に御霊の促しにより**感じる**ことによって非常に大切な事柄を学ぶことができます。ほとんどの人は自分が聞いたこと、あるいは読んだことだけからしか学ぼうとしません。賢明であってください。視覚による学習はもとより、聖霊が皆さんに感じるように促してくださることから学ぶ力を養ってください。見て、感じることによって学ぶようにいつも努力してください。この能力は絶えず心がけることによって高めることができます。聖霊からの助けが得られるよう信仰を込めて願い求めてください。御霊を受けるにふさわしく生活してください。御霊を受けたときにそれが分かるように心を



研ぎ澄まさせてください。御霊によって学んだ大切な事柄を書き留めて、なくさない所に保管しておきましょう。大切な印象を書き留める習慣を身に付けるなら、さらに御霊を受けている自分に気づくことでしょう。皆さんが得るそれらの知識は人生のあらゆる場面で活用することができます。昼も夜もどこにいても何をしているときも、御霊の導きに気づいて、それにこたえる心構えを常に持ってください。助けを与えられたらそのことに感謝して、従ってください。これを習慣化することによって、御霊によって学ぶ能力を高めることができます。それにより、主に導かれるままに生活することができます。さらに、皆さんが潜在的に持っているほかの能力をも引き出すことができるでしょう。

ここまでお話した原則の大切さを皆さんに伝える力があれば、わたしの話はここで終えることができます。皆さんは以上の概念から大きな恵みを受けることでしょう。見て、感じることによって常に学ぶためには不断の努力と実行が必要です。この原則を早速実行するようお勧めしま

みなさん
**御霊によって学んだ大切な事柄を書き留めて、
なくさない所に保管しておきましょう。
大切な印象を書き留める習慣を身に付けるなら、
さらに御霊を受けている自分に気づくことでしょう。**



す。これから皆さん自身にしか答えられない基本的な質問をしますので、自問してみてください。答えを書き留めておくといよいでしょう。次に主が与えようとしておられる導きに気づくよう、主の助けを心から願い求めてください。主は皆さんの学習を強要されることはありません。御霊によって教えを受けようとする姿勢を持つかどうかは皆さんが自分で決めなければなりません。皆さんの望みを実現するための方法を幾つか提案しますので、その間、導きを求めながら耳を傾けてください。また、より高い自己実現に向けて力強い動機づけを与えてくれる事柄も提案します。皆さんが受けた印象に基づいて書き留める事柄は、最も価値ある助けとなることでしょう。

それでは始めましょう。以下がその質問です。

皆さんの生活において基本的な最優先事項は何でしょうか。

夢や望みを実現する際にどのようなことが問題となっているでしょうか。

進歩を妨げている障害は何でしょうか。

どのような動機から、誘惑に打ち勝って、義にかなった生活を送り、主の導きと力を受けようとしているでしょうか。

これからお話しする勧告をじっくり考えながら、霊的な促しに感覚を研ぎ澄まさせてください。主はこの霊的な促しを通して皆さんへの個人的なメッセージを伝えられるのです。ここからは、皆さんとわたしが二人だけになって、うそ偽りのない気持ちを分かち合うつもりでお話しすることにします。個人的な話し合いには互いを信頼し、同じ信仰を持っていることが必要です。

ある人たちはほかの人と同じ行いをすることによって人から好かれるのを生活の信条としています。しかし、もっと賢明な人は救い主と主の真理を愛することを生活の基本としています。そのような人はたとえ仲間からプレッシャーをかけられても、自分の意志によって正しい原則を貫きます。この二つの生活パターンが招く結果をご紹介します。

最近わたしは、すばらしい両親を持つ、聡明な青年と会う機会がありました。物質的にも霊的にも非常に恵まれた環境にあります。しかし、彼は伝道に出るかどうか決めていませんでした。4年制の大学

へ行くよりも易しいため、コミュニティーカレッジに通って
いました。自由な時間には、自分のしたいことだけをして
います。必要性がなく、楽しみを追求する時間を奪われる
のが嫌なので、働いていません。彼はセミナーのクラス
を終えていましたが、そこで得た知識を自分に当てはめて
考えることはありません。最終的に、わたしはこう言いま
した。

「きたんのない意見を述べさせていただきます。あなた
を責めるつもりはありません。ただ、指摘しておきたいの
です。現在の選択から見ると、あなたはとりあえずしたい
ことだけをしているようですね。つまり、楽しみだらけで、
ほとんど犠牲を払うことのない、気楽な生活を送っている
のです。しばらくはそうしてられるかもしれませんが、
実はあなたの決断一つ一つが自分の将来を狭めているの
です。可能性や選択枝を減らしているのですよ。そう
遠くない将来に、あなたはいたくないような場所
で、望んでいないような生活を、残りの生涯ず
っと送るようになりますよ。何の備えもしていな
いのですから。あなたは自分に与えられた機
会を生かしていないのです。」

わたしは、わたしの現在大切にしているものの
すべてが、伝道に出て以来、どのように培われてき
たかについて話しました。伝道活動は自分
のためにするものではありません。わた
したちには選択の自由があります。自分
のしたいことを選べます。けれど
もわたしにとって、最大の成長を遂
げて、将来に備えることができたの
は、伝道中でした。^{こんにち}今日の若人の皆
さんにも備えるべき将来があります。
宣教師は自分でなく、ほかの人に焦
点を合わせます。宣教師は主に近づ
き、主の教えをほんとうによく学びます。
彼らは、メッセージに関心を持つ人々を見
つけますが、最初からそれが価値あるもの
だと確信してくれる人はまずいません。彼
らは自分の持てる能力^{あかし}をすべて使って、つ
まり、祈りと断食と証によって、人々が生
活を変えるように助けます。多くの宣教師

が証しているように、それが無私の心で行われるとき、伝
道の業は推し進められていくのです。わたしは彼に祝福
を授けたいと強く感じました。別れるときに、わたしは主
の助けを求めて一心に祈り、彼が正しい優先順位を選べ
るようにと願いました。そうでなければ、彼の進歩は止ま
り、彼の幸福は終わりを迎えることでしょう。

まったく対照的な青年の例を考えてみましょう。わたし
はこの青年を幼いときから知っています。両親が彼に神の
戒めをきちんと守るように教える様子を長年にわたって見
てきました。両親は模範と訓戒によって、この青年やほか
の子どもたちを真理の中で養いました。価値ある目標を達
成するために規律や犠牲という特質を伸ばすよう励まし
ました。この青年はこれらの特質を身に付けるために水泳
を始めました。早朝練習を続けるには規律と犠牲が求め
られます。練習を続け、彼はめきめきと上達しました。

行く手には幾つかのチャレンジが待っていました。
例えば、日曜日に開かれる水泳競技会がありました。
彼は出場したでしょうか。チームの優勝に貢献す
るためだからと正当化して、日曜日に泳がないと
いう、自分で決めたルールに例外を設けたでしょ
うか。いいえ、仲間からのきついプレッシャーが

あっても彼は譲りませんでした。ののし
れ、暴力さえ受けました。けれども
決して譲歩しませんでした。仲間
外れにされ、孤立し、プレッシャ
ーをかけられ、悲しい思いをし、
涙を流しました。それでも妥協
しませんでした。彼は、わたし
たち一人一人が悟らなければ
ならない事柄、すなわち、パウ
ロがテモテに与えた勸告を身をも
って学んでいました。「キリスト・イ
エスにあって信心深く生きようとす

**望みを達成するために
目標をはっきりと見据え、幕を通して
助けを受ける方法を理解したでしょうか。
助けを受けるための8つの方法を
紹介したいと思います。**



る者は、みな、迫害を受ける。」(2テモテ3:12) 彼は何年にもわたって一貫して義にかなった生活を送りました。その間、何百回となく正しい決断を下しました。大きなチャレンジに直面したことも何度かありました。そうすることにより彼の中に、堅固で不屈の人格が築き上げられました。現在、宣教師として働く彼の能力、真理の知識、揺るぎない献身、福音を分かち合う決意は、同僚たちから高く評価されています。かつてはつまはじきにされていた若者が、今や仲間から尊敬される指導者となっているのです。

これらの模範はあなたに何を語りかけているでしょうか。望みを達成するために目標をはっきりと見据え、幕を通して助けを受ける方法を理解したでしょうか。助けを受けるための8つの方法をご紹介しますと思います。

第1——イエス・キリストを信じる信仰

知識や証でなく、信仰のみに頼って歩まなければならない時があります。自分の経験や聖霊の神聖な証によって証明されていない真理に信仰を行使するよう求められるのです。

イエス・キリストに対して、また祝福を得させる主の無限の力に対して信仰を行使してください。信仰は人を行動に駆り立てます。成功するかどうかの光がほとんど見えないときにも目標を目指す力を与えます。信仰とは真理を徹底して信頼することです。したがって、それは単純ながらもこの上なく大切な真理を知り、真理に従って生活する信念を与える力の源です。永続する幸福は、不変の真理に従って信仰をもって生活することから生まれます。

第2——指標となる原則

あなたは人生の指標となる原則をすでに持っていると思います。もしまだであれば、今すぐそれを決めてください。そのような標準を持っていれば、環境や日常生活のプレッシャーに影響されて間違った決断を下すことはないでしょう。従うと心に決めたそれらの原則は、正しい道を歩み続けられるよう支えてくれます。イエス・キリストの教えに基づいた原則を選んでください。指標となる原則を用いるに当たっては、自分自身に対して正直であってくだ



イエス・キリストに対して、また祝福を得させる主の無限の力に対して信仰を行使してください。

信仰は人を行動に駆り立てます。

成功するかどうかの光がほとんど見えないときにも目標を目指す力を与えます。

さい。悲劇や落胆、無為の人生は、自分かあるいは主にに対して正直でないときに起こります。

あなたの原則を妥協してはなりません。一切の例外を作らないことが強さと安全をもたらします。たとえ原則から離れることが正当化されるような状況であっても、そうしてはなりません。こじつけは真実をゆがめ、不当な例外を正当化



してしまいます。サタンは人を真理から離れさせるためにこじつけという手段を用います。人生の問題の幾つかは、状況を理由にして、標準からわずかに外れることがきっかけとなって発生します。利^{せつ}的^なな生き方をしている人は、状況やほかから誘われたことに基づいて決断を下します。そのような人は最終的に永遠の律法に背いて、人生の偉大な機会を逃してしまうことになります。臨機応変にうまく立ち回っているように見えるかもしれませんが、それはつかの間のことでしかありません。彼らは永遠の幸福につながるものを手放しているのです。真理の上に生活を築くならば、成功し、幸福を得ることを約束されています。

第3——祈り

あなたは、祈りが大いなる慰めと導きと堪え忍ぶ力となることを知っていると思います。ところが日常生活では、短く切り上げてしまう機械的な祈りのような、あまり価値のない祈りで済ませてしまおうとする誘惑に駆られることがしばしばあります。安らぎや慰め、導き、精神的な強さをもたらす祈りはエノスがささげたような祈りです。エノスは「キリストを信じ」て祈り、「[キリスト]の戒めを守る」ことにおいて勤勉になる大切さを教えました(エノス1:8, 10)。エノスの言葉は大切なことのために祈る方法を教えています。

「主を信じる信仰が揺るぎないものになってきた。そして、……何度も長い時間熱烈に主に祈った。

そして、わたしが祈り、力のかぎり努力した後に、主はわたしに、『あなたの信仰のゆえに、わたしはあなたの願いを望みどおりに聞き届けよう』と言われた。」(エノス1:11-12, 強調付加)

このような方法で祈るときに、期待をはるかに超えた理解と助けを受けることがしばしばあります。

第4——聖文

救い主を信じる信仰をもって深く考えるときに、聖文は理解と強さを得るためのこの上ないよりどころとなります。

聖文は真理に対する信仰を強めます。啓示された真理を力のかぎり実践するならば、それらは正しい動機づけの源となります。正しいことを行う勇気が増し加えられます。生活において最優先にすべきことを決して譲歩しない決意を守り抜くことができます。

絶えず真理に従って生活することによって、何をすべきか靈感を受け、また必要であれば、それを行うための神の力を受けることについて、聖文に力強く明言されています。困難や疑問、さらに大きなチャレンジを克服するために主によって力を強められた人々について深く考えるとき、彼らの経験が事実であったことを聖なる御霊は確信させてくださいます。そして、同じような助けがあなたにも与えられることを知のです。

第5——神殿における礼拝

永遠の真理を理解して従う能力を高めるもう一つの大切な手段は、神殿における礼拝です。神殿の儀式をすべて受け、そこで交わす聖約に従わなければ、栄光の最高の階級に入って永遠の幸福のすべてを受けることはできません。神殿に参入することによって、平安と心の満足をもち、慰めを与える、穏やかで静かな力が流れ込んできます。祈りの答えとしての靈感を受ける状況を作り出すのです。家族歴史活動を行うときにも、同様の祝福が得られます。

第6——道徳的な清さ

永続する幸福は、道徳的な清さという土台の上に築かれます。日常生活において何を選択するかによってその幸福に到達できるかどうかが決まります。主が求められることは何でもできることを思い起こし、力を振り絞ってください。強さが必要とされるときに、それを願い求めてください。この大切な戒めを守るように主はあなたを助けてくださいます。できる限りのことを行うならば、主に寄せるあなたの信頼はあらゆる障害を克服する力を与えてくれます。





人生について深く考え、人生の方向を主に確認していただくために、平安で静かな避け所が必要です。わたしたちは自分が正しい道にいるかどうかを定期的に確認する必要があります。

第7——絶えず熱心に働く

必要なときに主が助けの扉を開いてくださるという信頼の下に、熱心に働き、真理の原則に積極的に従うことが幸福の原則です。わたしたちは皆、意義のあることを成し遂げるには意義のある努力が求められるという大切な教訓を学ぶ必要があります。御父は御自身の計画を覆すようなことをされません。永遠の祝福を望むだけで、代価を支払おうとしない人に、与えるようなことをなさいません。

第8——良い音楽

良い音楽、特に神聖な音楽には霊的な事柄を理解しやすくする力があります。神聖な音楽は精神を高め、積極的に従おうとする気持ちをはぐくみます。聖なる御霊の促しにこたえるための心を準備させてくれます。邪悪な音楽のまき散らす毒から遠ざかってください。

個人的な話し合いにとしては説教じみていたかもしれません。そうであれば許してください。そのような意図はまったくありません。意義のある生活を通して計り知れない幸福をわたしに得させてくれた事柄を分かち合いたいだけなのです。

最後にもう一つの提案したいことがあります。それは聖霊の導きを見分けやすい神聖な場所が幾つかあるということです。神殿はそのような場所の一つです。また、ほかの場所も、敬意を示し、その場所にあってふさわしく振る舞うことによって、聖なる場所とすることができます。人生について深く考え、人生の方向を主に確認していただくためには、平安で静かな避け所が必要です。生活上の雑事に迫われて深く考える時間を見つけるのが難しいと感じ



ることがあるかもしれません。けれども、どれほど速く進んだとしても、正しい道を歩んでいるのでなければ、何のためにもならないということを忘れないでください。わたしたちは自分が正しい道を歩んでいるかどうかを定期的に確認する必要があります。自分自身を吟味してみることによってすぐに有益な結果が得られることがあります。

生活の中で何を最優先にしているだろうか。

自由な時間をどのように過ごしているだろうか。その一部を最優先事項のために使っているだろうか。

自分には、「してはならないと分かっているが、いながら行っていること」はないだろうか。もしあれば、それを断ち切ろう。

このメッセージについて考え、感じたことを書き留めていただければ幸いです。皆さんの義にかなった生活は行く先々で人々に祝福をもたらします。ここで考えてきた事柄を皆さんはすでに実行しているかもしれません。あるいはこれから実行する人もいるでしょう。皆さんにとってこれからずっと役立つ最も大切なことについて話してきました。

父なる神は生きておられ、神の計画は完全であることを厳粛に証します。あなたが祈るとき、それはこたえられることを証します。打ち砕かれた心と悔いる霊をもってささげるときに、祈りは最もよくこたえられます。わたしはいつの日か、イエス・キリストについてはっきり知っていることをどれほどよく証してきたかという観点から裁きを受けるでしょう。したがって、キリストの贖いによって、御父の幸福の計画は成し遂げられることを厳かに証します。サタンの計画は水泡に帰すよう定められています。わたしはイエス・キリストが生きておられることを知っています。イエスが生きておられて、皆さんを愛しておられることを、力のかぎり、厳粛に証します。従順であるならば、幸福を見いだせるように主は助けてくださいます。□

2001年1月23日、ブリガム・ヤング大学ディボーショナルにおける講話

長老、人々はあなたたちを愛してくれます

リグランド・リチャーズ(1886-1983年)

若いころのことです。まだ執事にさえ聖任されていないころです。あるときわたしは、ワードで行われたある集会へ行きました。そこでは、二人の宣教師がそれぞれアメリカ南部での伝道について報告していました。集会が終わって帰るとき、わたしはもしも召されさえすれば世界中どこだって伝道に行きたいという気持ちになっていました。

家に着き、自分の部屋に入ると、ひざまずきました。そして、ふさわしく生活できるよう助けてくださいと主に祈りました。十分な年齢になったときに伝道に行くためです。やがてわたしを乗せた列車がソルトレークの駅を出る時が来ました。わたしはオランダへ召されたのです。別れ際に愛する人々にこう伝えました。「今日は人生で最高の日だよ。」

宣教師への愛

伝道地へ旅立つ前に、当時副管長だったアンソン・H・ランド長老(1844-1921年)が、わたしたち宣教師に向かってこう言いました。「人々はあなたたちを愛してくれます。……あなたたちは素晴らしいものを携えて行くのですから、人々はあなたたちを愛してくれます。」そう聞いても、そのときにはよく理解できませんでした。でも、オランダを去るときになってそれが分かりました。わたしはあちこち回って、オランダの聖徒たちやわたしが教会へ導いた改宗者たちに別れを告げましたが、そのとき、故郷の愛する人々に別れを告げたときと比べて、1,000倍とも言えるほどの涙を流しました。

例えば、アムステルダムでこんなことがありました。わたしはある家に行きました。わたしはその家族を教えた最初の宣教師でした。その家の母親が、わたしの顔を見上げ、涙を流しながらこう言いました。「リチャーズ兄弟。何か月前、娘がシオンへ旅立ったときはつらいと思ったわ。

でも、今あなたを見送る方がずっとつらいわ。」そのときわたしはランド副管長の言葉の意味が理解できたと思いました。「人々はあなたたちを愛してくれます。」

ある男の人に別れを告げに行きました。軍服を着ていた彼はまっすぐに立っていました。彼はひざまずきました。そしてわたしの手を取り、ぎゅっと握りました。そしてわたしの手に口づけをすると、涙でぬらしてくれました。このときわたしは、ランド副管長が言ったことの意味が理解できたと思いました。



**リグランド・リチャーズ長老は
管理監督を務めた後、
十二使徒定員会の
会員として働いた。**

**「不思議な驚くべきわざ」の
著者でもあるリチャーズ長老は、
伝道活動を愛する人物として
教会全体に知られていた。**

宣教師として奉仕する喜び

さて、わたしはこれまで、宣教師たちと一緒にたくさん働いてきました。4つの伝道部で働き、2つの伝道部を管理しました。そしてたくさんの伝道部を巡回指導してきました。行く先々で、若い宣教師たちの証を聞くのを楽しみにしてきました。例えば、オレゴンでの証会で一人の青年が言いました。「この世のどんな会社が、高額な給料を払うから伝道をやめてこっちに来てほしいと言ったとしても、わたしは行かないでしょう。」

アイダホ出身の宣教師から手紙を受け取りました。このように書いています。

「伝道よりも素晴らしいものはありません。……わたしは主に仕えるため

に生活をささげています。わたしの心は喜びであふれそうです。ちょうど今わたしの目から流れている喜びの涙のように。こんなに素晴らしいものはありません。これほど。伝道の喜びと成功を味わうことほど。」

これまで経験してきた伝道の奉仕について考えると、男の子を育てても伝道には行かせないなんてわたしにはとてもできません。伝道が彼のためになるからです。それに、わたしたちにはこの世に対して福音の真理を分かち合う義務があると思うからです。□

1978年10月の総大会説教から



質疑応答

自分がキリスト教徒であることを友達に理解してもらうにはどうしたらよいでしょうか

わたしがこの教会の会員なので、ほんとうのイエス・キリストを信じていないと言う友達があります。

どう反論しても耳を貸してくれません。どうすればよいでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

あなたの友達、あなたがこの教会の会員だからほんとうのイエス・キリストを信じていないと決めつけています。たぶん、人から聞いたことをそのまま言っているのでしょう。友達は、わたしたちが何を信じているのか理解していない人や、先入観ではっきりと物事を見ることのできない人から、そう聞いたのでしょう。教会の会員は、そのような誤解や偏見にさらされることがあります。

末日聖徒であるからキリスト教徒ではないと言われるようなことがあります。

ます。そんなときは、救い主に対するあなたの信仰について話したり、証を伝えたりしてみたらどうでしょう。そうすれば、友達もあなたの献身の深さが分かるのではないのでしょうか。

しかしながら、こういったことを言う人たちの中には、まれに、わたしたちの信条について知識がないのではなく、教義について論争したいというような人たちもいます。あなたの友達がこう

いった部類の人であっても、わたしたちの信じていることを説明し、それに対する証を伝えてみてください。もちろん、聞いてもらえない可能性もあります。

そのような場合でも、行いによ

て、あなたがほんとうにイエス・キリストに従う者であると示すことができます。

救い主は教えられました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14:15)「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:34-35)「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」(ヨハネ15:14)あなたが伝えられる最善の、また、時としてただ一つの証は、あなたの生活の仕方そのものです。教会は今日、かつてなかったほど世の人々



から好意を寄せられています。それは、会員が正しい生活を送っているからです。

読者からの提案

行いは言葉に勝ります。信仰を持ち、誠実でへりくだった態度でイエス・キリストに従うならば、また、福音に添ってキリストのような生活をするならば、あるいは、キリストのようになるために努力し、良い模範を示すならば、周りの人々は、わたしたちの教会がイエス・キリストの教会であると分かるでしょう。



台湾・台南ステーク、
嘉義第1ワード
朱 燕文

教義と聖約第11章21節の勧告に従い、主の言葉を得られるように求めてください。そうすれば、「人々を確信に導く神の力を受け」られるでしょう。この段階を踏めば、慰めと導きを必ず得られるでしょう。



日本・名古屋ステーク、
御器所ワード
慶久正喜

友達に何と言われようとも、最も大切なことは、真理の教会に集っているという証、生きておられる真実の神と御子イエス・キリストに仕えているという証を固く保ち、揺るがないことです。わたしは、「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」ことを信じています(伝道3:1)。友達が、教会についてもっと学べる時がきっと来るはずで。模範を示すこと、証を

伝えること、堅固であること、そこから違いが生じるのです。



フィリピン・パニクイ地方部、
パニクイ第1支部
ジェフリー・N・ノール

わたしは、今専任宣教師として伝道中です。イエスがキリストであり、実在の御方で今も生きていらっしゃることに對する生きた証人となれるよう努力しています。そのような証をする人にはこう約束されています。「聖霊が注がれて、〔わたしたち〕の述べるすべてのことを証するであろう。」(教義と聖約100:8)



フィリピン・
オロンガボ伝道部、
ロラベラ・アペロ・
ランケ姉妹

クリスチャンであることを友達に納得してもらうために、神とイエス・キリストに対する愛を模範によって示すことができます。祈ることができます。友達に、自分で真理を知るために祈るよう勧めることができます。模範や信仰、愛、そして従順さを示すなら、友達はわたしがクリスチャンなんだと分かるようになるでしょう。



ロシア・ウラジオストック
伝道部、ナホトカ支部
マヤ・サバルベコベナ・
ピセンビナ

すべての人を愛し、敵を祝福し、苦しんでいる人を訪ねるような努力をするならば——救い主がされたようにするならば——わたしたちはイエス・キリ



末日聖徒は クリスチャンです

「最大の誤解は、わたしたちがイエス・キリストに従う者ではないという考えです。この主張は常にわたしたちにまわりついてきました。しかし、内容を伴ったものではありません。この世界にキリストを信じている人がいるとすれば、それはこの教会の会員です。この教会の名称には主の御名が付いています。わたしたちの礼拝の中心はイエス・キリストです。わたしたちがクリスチャンではないという誤解は繰り返し語られ、宣伝されてきましたが、次第に沈静化しつつあります。状況は変化し、わたしたちは過去の時代よりももっと受け入れられるようになってきているのです。教会について言えば、今は偉大な善意の時代ではないかと思います。」——ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(『靈感を伝える言葉』『リアホナ』1999年6月号、3-4)

ストの真の信者であると分かってもらえるようになるでしょう。



オーストラリア・シドニー・
ハイパークステーキ、
イーストレークス(トンガ語)
ワード
ケレピ・トア・ファメイタウ

行いの方が、言葉よりも大切です。イエス・キリストがメシヤであられることを信じない人は大勢いました。けれども、主はそのような人々に真理を示されました。完全な模範、愛、奉仕、親切、謙遜、慈愛を通して示されたのです。わたしたちも同じようにすることができ、いつでも、どこでも、ほかの人々にとっての光となることによって(モーサヤ18:9参照)。



ホンジュラス・サンペドロ・
スラ伝道部、
メルビン・ドリアン・
ロダス・ロペス長老

わたしが友達にしてあげられる最善のことは、教会に招待することです。また、彼らのために断食と祈りをし、証を伝えることもできます。人生においてイエス・キリストはどれほど重要なのか、人類のための神の計画はどのようなものなのか、友達が理解できるよう神は助けてください。



フィリピン・アリシア地方部、
エチャグ第1支部
リシエル・M・ミゲル

わたしは友達にこう言っています。「もし、わたしがイエス・キリストを信じていなかったなら、神様が福音を教え

るために遣わされた宣教師に耳を貸してはいなかったでしょう。また、聖霊を感じることもなかったでしょう。教会の教えに改宗することもなかったでしょう。」



ロシア・ウラジオストック
伝道部、ナホトカ支部
マリナ・ウラジミロブナ・
クラボバ

友達が救い主に対するわたしの信仰を疑ったら、バプテスマ会のようなイエス・キリストを中心とした活動に招待します。また、教会の図書室から読み物を借りて友達に読むように勧めます。でも、いろいろなことをする前に、まず、御霊が彼らの心に触れるようにお祈りするでしょう。



ナイジェリア・
カラバール地方部、
カラバール第1支部
エスター・N・ニネディス

こういった状況であれば、友達に、わたしの信じていることがほんとうかどうか見極めるためにいちばんいい方法は祈りであると伝えます。友達に、一緒に祈ってみようと言うでしょう。天の御父にわたしの信仰が正しいものかどうか示してくださいようお願いしてみようと言うのです。祈りを通して、天の御父はすべてのことの真理を明らかにしてください。



メキシコ・カリアカン・
タマスラスステーキ、
ラスウエルタスワード
レーナ・グアダルーペ・
オロスコ・ボルティロ

わたしたちの証がほかの人の心に触れるように、すべてのことを精いっぱい行う必要があります。話す言葉や生き方、着る物や娯楽において模範になる必要があります。友達は、今は信じないかもしれませんが、いつか、わたしたちが模範を通して彼らの心に残した信仰の遺産を思い出すことでしょう。



アルゼンチン・トレール
北ステーキ、
ユニオン第2ワード
ルシア・セシリア・ペレス

「質疑応答」は青少年を対象としており、様々な国の青少年からの幅広い提案を掲載したいと願っています。2002年9月1日までに、あなたの意見をお送りください。あて先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS
09/02, Liahona, Floor 24, 50 East
North Temple Street, Salt Lake City,
UT 84150-3223, USA, またはEメール
でCur-liahona-imag@ldschurch.orgま
でお送りください。

住所、氏名、年齢、所属ステーキ／
地方部、ワード／支部名を明記のうえ、
日本語で意見をお寄せください。手書
き、パソコン、いずれでもけっこうで
す。写真を忘れずに同封してください。
ただし返却は致しかねますので、あら
かじめご了承ください。

質問——時々、何が正しく何が間違っ
ているか見分けるのがとても難しく感
じます。なぜ、教会はできることとど
きないことをはっきり書いたリストを
作ってくれないのですか。□

奉仕と善い行いから得られる喜び

以下の文を訪問先の姉妹たちとともに読んで、質問や聖句、教会指導者の教えについて話し合ってください。自分の経験や証^{あかし}を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

モーサヤ書2章17節——「あなたがたは同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」

アルマ書37章34節——「善い行いをするのに決して疲れず、柔和で心のへりくだった者になるように……民に教えなさい。このような者は、その霊に安息を得るであろう。」

教義と聖約58章27-28節——「まことに、わたしは言う。人は熱心に善いことに携わり、多くのことをその自由意志によって行い、義にかなう多くのことを成し遂げなければならない。人は自らの内に力があり、それによって自ら選択し行動する者だからである。そして、人は善を行うならば、決してその報いを失うことはない。」

七十人 ロバート・J・ホエッソン——「イエスは、わたしたちを……愛していたからこそ、わたしたちの罪のために贖いの犠牲となられたのです。イエスの愛がなければ、わたしたちは天の御父のみもとに戻ることができないでしょう。イエスの生き方は、わたしたちの従うべき模範です。イエスの道はわたしたちの道でもあるのです。『あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。』」

〔3ニーファイ27：27〕イエスは、わたしたちが努めて善いことを行わなければならないこと、同胞の物心両面における福利は自分自身の福利と同じように大切であること、わたしたちは天の御父のすべての子どもたちに対して心からの関心と哀れみを示すべきことを教えられました。モロナイはキリストのような愛を慈愛と定義しました。……主を信じている、主を愛していると言うだけでは不十分です。終わりの日にほかの人々に対して主と同じような愛をわたしたちが得ていると認められなければならないのです。わたしたちは、救い主のように自らの命を捨てる必要はありませんが、救い主と同様に、人生を構成するもの、すなわち時間や才能、財産、自分自身などをささげることによって、ほかの人々の生活を祝福すべきです。」「〔真に従う者〕」「聖徒の道」1999年7月号、34-35参照

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス——「わたしたちが受けているチャレンジは、改心の過程を経験し、永遠の命と呼ばれる地位と状態に向かって歩むことです。単に善を行うだけでは到達できません。正しい動機すなわちキリストの純粋な愛という動機に基づいて、善を行う必要があります。使徒パウロは愛の大切さに関する有名な教

えの中でこれを説明しています(1コリント13章参照)。慈愛がいつまでも絶えることがなく、パウロが挙げたいかなる善行よりも大切であるのは、慈愛、すなわち『キリストの純粋な愛』が(モロナイ7：47)、人の行動ではなく、人の状態だからです。慈愛を身に付けるには改心へとつながる行動が常に必要とされます。こうして人は慈愛を身に付けた者となるのです。このため、モロナイが宣言したように、『人は慈愛を持たなければ、……御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません。』(エテル12：34、強調付加)」「〔主の望まれる者となるというチャレンジ〕」「リアホナ」2001年1月号、42)

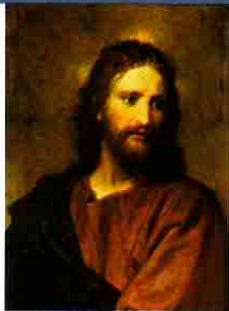
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト——「神は皆さんのことを御存じで、皆さんにどのような可能性があるかも御存じです。神は、皆さんが神の霊の息子や娘であった最初のときから皆さんを御存じでした。皆さんがどのようなになるかは、皆さんがどのように義の原則に従い、どのように善い業をなすかに大きく依存しているのです。」「〔自分を何者であると考えていますか〕」「リアホナ」2001年6月号、4)

■ 奉仕を行うことは、イエス・キリストの贖いとどのように関連しているでしょうか。

■ 奉仕は、それを受ける人にどのような影響を及ぼすでしょうか。奉仕を行う人自身にはどのような影響があるでしょうか。

■ 奉仕にいつその「喜び」を見いだすにはどうしたらよいでしょうか。□





道をそれた

匿名

絵／キース・ラーソン。「キリストと金持ちの若い役人」の一部、ハインリッヒ・ホフマン画

主の御霊を通して悟りました。娘を助けるための最良の方法は、わたし自身の生活を変えることなのです。

何年も前、わたしがまだ若い母親だったころ、夫が教会を離れ、わたしから去って行ったとき、わたしの心はひどく傷つきました。わたしは幼い二人の娘とともに、福音を中心とした生活を送りました。

わたしは子どもたちのために日々祈り、子どもたちを健全な活動に参加させました。ホームティーチャーと監督は、幼い娘たちが永遠の世においてわたしのものとなり、娘たちはわたしが払った犠牲に必ず感謝するだろうと伝えてくれました。わたしは子どもたちが聖約の下に生まれていて、約束された祝福を受け継ぐ者であることに慰めを感じていました。離婚してから3年がたって、わたしは忠実な末日聖徒と結婚し、すべてはうまくいくと確信していました。

しかし、すぐに下の娘に深刻な問題が出てきました。幼いころは陽気で、とても元気な子どもでした。しかし、思春期に入ってから手がかかるようになり、反抗的で、争いを好むようになりました。娘は次第に喫煙や飲酒をするようになり、薬物を試し、万引きを行うようになりました。下品な言葉を使い、性的な関係を頻繁に持つようになりました。すべての権力に刃向かい、ついには高校を退学しました。

絶望的な時

これはわたしが今までに直面してきた試練の中で最も難しいものでした。夫とわたしは、娘が悔い改め、証を得て、生活の中に平安を感じることができるよう願いました。わたしは落胆し、悲しみに沈みまし



子どもを愛する



た。愛する者をまた一人「失う」ことを思うと耐えられませんでした。

わたしたちは断食をし、祈り、娘を失うことがないように天の御父に願いました。夫とわたしは話し合い、監督に助言を求めました。娘の名前を神殿の祈りのリストに加えました。忍耐強い夫は、わたしにとって大きな助けでしたが、娘にとってはほとんど無力でした。娘が夫を家長として受け入れることを拒んでいたからです。

この期間、わたしは数多くの神権の祝福を受けました。多くの時間を割いて娘と話をしようと思いました。聖文を読みました。また問題を抱えた子どもとの接し方について書かれた多くの本を読みました。わたしは助言を求め、友人や家族と話し合いました。そして、青少年の指導者に助けを求め、娘に良い影響を与えてくれるようお願いしました。

わたしは思い巡らしました。「家庭生活の中の喜びはどこにあるのだろうか。この問題はいつ解決するのだろうか。」10代での妊娠、性感染症、薬物中毒、飲酒運転による事故死など、わたしたちは現代の悪夢ともいえるべきあらゆる問題を恐れました。問題解決の糸口も見つからず、わたしは善い親である自信を完全に失いました。絶望的で、悲しく、気が狂いそうになり、怒りを感じ、そして無力でした。

自分自身を変える

失意のうちに数年が過ぎ、わたしは自分自身の生活を変える必要があると悟り始めました。娘を助けるためのわたしの努力は、信仰によるものではなく、恐怖によるものであったことが分かり始めました。主の方法は人を恐れさせ、狂乱させるものではないのです。イエス・キリストは絶望ではなく希望をお与えになります。落胆と不幸の創始者はサタンなのです。わたしは誤った声に耳を傾けていました。

わたしは福音の原則に戻り、より強靱でより堅固な靈性を築くことにしました。例えば、感謝の祈りを最後にささげたのはいつだったか考えてみました。与えられた多くの祝福をまったく忘れてしまったのでしょうか。苦しみもがいている娘の良い性質を見るように努めていたのでしょうか。素直な子どもたちもいることに感謝したのでしょうか。日々の生



**イエス・キリストの^{あがな}贖いに対する感謝の気持ちが
増すにつれて、主が娘の人生に影響を与えること
がおできになるという信仰が増してきました。**

の朝に読んだ事柄について深く考えました。
車の中で得た霊的な経験は、聞き逃したニュ
ースや交通情報よりもずっと価値あるもので
した。

個人的な啓示を受ける

不思議なことが起こり始めました。
頭の中にイメージが浮かぶようになった
のです。どのように毎日の責務を果たし
たらよいか、またどのように教会の責任
の準備をしたらよいかについてアイデア
が浮かびました。そして大切な娘と接す
るにはどうしたらよいかについて靈感を
受けたのです。

ある日わたしは、娘と話するときには、二
人に共通する肯定的なことを話題にする
べきだと感じました。当然のことながら、
わたしたちに共通する、音楽、芸術、そして古い
映画に関する話は、お互いを傷つけることはありません
でした。この変化はわたしたちの関係を修復する第一歩と
して助けになりました。

別の朝、わたしは強い気持ちを感じ、その気持ちはそれ
から何か月か続きました。強制することが答えではなかつ
たのです。わたしは涙ながらに、選択の自由が神の計画の
基礎であることを忘れていた自分を赦してくださるよう、天
の御父にお願いしました。義になかったことであっても、だ
れかに何かをするように強いるのは適切ではないことが分
かったのです。それはサタンが意図していることでした。

物事は一夜にしては変わりませんでした。とても難しく、
大変な努力が必要でした。挫折することもありましたが、わ
たしは努力し続けました。親として、わたしたちには我が家
で何が容認されるか標準を示す責任があったことには変
わりありません。しかし、わたしがもっと自信を持つようにな
り、感情的でなくなるにつれて、娘ももっと前向きな応えを
するようになりました。

霊的な気持ちを絶えず感じるようになったのは、わたし

活の中にある幸せなひとときに気がついていましたでしょうか。
美しい夕日や、優しい雨に喜びを感じていましたでしょうか。

わたしは自分を恥じました。とても否定的で陰気な人間
になっていて、わたしの思いと行動はイエス・キリストへの証
を映し出してはいませんでした。わたしの表情は救い主へ
の愛と希望を表してはいませんでした。

わたしは自分を変えることにしました。心の内を積極的
な思いと気持ちで満たすようにしました。精神を高揚させ
る本を読み、意味のないテレビ番組を見るのをやめました。
運動を熱心に行うようになったためストレスは解消され、希
望がわきました。

しかし、最も重要だったことは、聖文を読む習慣を変え
たことでした。わたしの思考能力は朝が最も活発なため、
聖文を朝早く読むようにしました。あるときは数節だけ読み
別のときは数章読みました。車の中ではラジオを消し、そ

たちにとって大きな祝福でした。御霊は教えに教えを加えて、わたしたちが何を、いつ行ったらよいか教えてくれました。その教えに従ったとき、わたしたちは祝福されました。苦しんだときは優しく思い出させてくれました。

イエス・キリストへの信仰

御霊はある機会に、真の改心は主を通して訪れることを思い出させてくれました。それで、単に娘が言ったとおりにするよう祈るのではなく、娘が祝福され、心に変化が生じるよう願うことにしたのです。そして救い主について娘と話す機会を探しました。例えばあるとき、暴力的な世の中に主の穏やかな方法がもっと必要であることで同意しました。

御霊の教えを通して、キリストがわたしに対して抱いておられる偉大な憐れみについてもっと分かるようになりました。ある日このように考えました。「道をそれてしまった家族のことで経験したことは、たぶんわたしに悟りを与えてくれたのかもしれない。主への信仰と信頼を完全なものにしなければ、わたし自身も道からそれてしまうかもしれないのだ。わたしたち家族が、道をそれた娘について苦しむことは、最後にはわたしたちの益となるのかもしれない。わたしたちの弱さは、娘の問題のように目につくものではなくても、娘の問題と同じように精錬される必要があるのかもしれない。」

このように考えるにつれて、わたしはキリストの贖い^{あがな}に今まで以上に感謝するようになりました。そして感謝の気持ちが増すにつれて、主が娘の人生に影響を与えることがおで

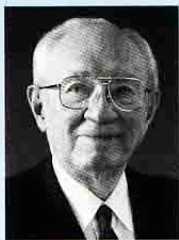
きになるという信仰が増してきました。わたしは強い確信が持てるようになりました。主はこれから、娘が義にかなった行いができるように影響を与え、戻って来られるように導いてくださるでしょう。主はわたしが愛しているより、はるかに娘のことを愛しておられるからです。今のわたしの役割は娘の近くにいて、できるかぎり救い主の模範になるよう努力することです。

未来への明るい希望

娘はまだ今でも、教会に活発になってはいません。しかし、良い人生を送っています。娘は最近善良な男性と結婚し、良い職業に就き、責任を任され、優秀な働きをしています。娘とわたしの間にはすばらしい関係があります。わたしは娘がいつか、子どものころに学んだ教えに従い、戻って来てくれるという明るい希望を抱いています。

この困難な時期を通して学んだことがあります。わたしたちは自分の人生のために靈感を受ける権利が与えられているということです。聖霊のささやきに耳を傾けられるよう自分自身を備え、それに従って行動するときに、聖霊が助けてくださることを固く信じています。

娘との経験を通して、わたし自身も救い主に近づくことができました。この経験を通して、自分自身の心を探ること、聖霊の導きを求めること、贖いに頼ること、与えられたものに感謝すること、そして未来に希望を持つことを教わりました。□



「彼らの心を自分たちに向けてください」

「わたしは、人生の孤独な道を歩まねばならないことが多い若人を心に留めています。彼らは……害悪のただ中に身を置いています。彼らがその重荷を父親や母親と分かち合えるよう願っています。若人の声に耳を傾け、忍耐強く理解をもって接し、彼らの心を自分たちに向け、孤独の中にある彼らを慰め、支えてください。導きと忍耐心を求めて祈ってください。ひどく腹が立つようなことがあっても、愛する力を祈り求めてください。理解力と親切な心、そして何より知恵と靈感を求めて祈ってください。」——ゴードン・B・ヒンクレー大管長（「あなたの子らの平安は深い。」『リアホナ』2001年1月号、67）□



七十人会長会
デビッド・E・ソレンセン

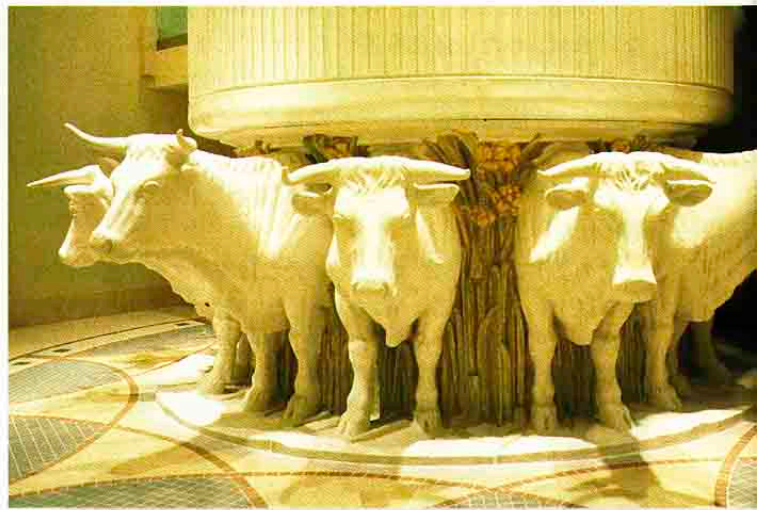
神殿の業

に関する教義

神殿は啓示、靈感、瞑想^{めいそう}、そして平安の場所であり、自分自身を取り戻し、思いを明確にし、祈りの答えを見いだし、礼拝と奉仕から得られる満足感を味わう場所です。

わたしは青年時代に、兵役を終えるとユタ州中部に住んでいた両親のもとへ帰りました。マンタイの町から約65キロ離れた地域でした。わたしが戻る少し前に、マンタイ神殿で小規模の増築工事を行うことが発表されていました。教会指導者はその工事にボランティアとして参加する人を求めています。わたしは2週間交代の奉仕を申し込みました。そしてすぐに現場に向かうと、つるはしを手にして、大きな石を割り、神殿周辺の岩石を取り除く作業に取りかかりました。暑い夏の太陽が一日中照りつける中での作業は肉体的には過酷で、精神的には退屈なものでした。岩石を取り除くために苦勞しているときに、ふとボランティアの呼びかけに応じる決意を安易にしすぎたのではないかと考えることもありました。

しかし、何日か過ぎたころにわたしはすばらしい霊的な体験をしました。肉体的にきつい作業をしている最中に何度か、わたしが将来ほかの神殿の建築にも携わるであろうと聖霊が告げてくださるのを聞き、感じたのです。それはとても静かな感覚でしたが、非常にはっきりと感じ取ることができるものでした。そのときは、牧場での仕事に戻る用意をしていたので、自分がどのようにして神殿の建築に携わるのか分かりませんでした。しかし、わたしはその感覚を靈感として受け入れました。それから時々、この



ことについて考えましたが、どのように実現するのか依然として見当もつきませんでした。しかし、静かな細い声があるように言われたことは絶対に確かでした。

ここ数年間に、想像もしなかった方法でその約束が果たされるのを見るという特権を与えられてきました。この目覚ましい発展を遂げている時期に神殿部で働く機会を



神殿の写真／©INTELLECTUAL RESERVE, INC. 許可なく複製
することを禁じる。右—フォトイラストレーション／スティー
ブ・バンダーゾン；背景—ユタ州マウントティンパノガス神殿。
日の栄えの部屋の写真／ウェルデン・C・アンダーセン；サモア・
アピア神殿の写真／ウィリアム・ホルドマン；杵内—ユタ州パ
ーナル神殿。バプテスマフォントの写真／タムラ・H・ラディータ

得たのです。神殿が世界のより多くの人にとって身近なものになるよう決意したゴードン・B・ヒンクレー大管長を目の当たりに見て、そして神殿の儀式を通して得られる祝福に対する大管長の熱意を肌で感じてきました。ヒンクレー大管長はこうに語りました。「わたしはすべての会員の方々に、神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、推薦状を貴重な財産と考^えて大切に^し、これまで以上の努力を払って主の宮に参入し、そこで受ける御霊と祝福にあずかるようにと、わたしの持てる限りの力を込めて、強くお勧めします。」¹ヒンクレー大管長はここで、過去の預言者たちが語ってきたことを繰り返しています。例えば預言者ジョセフ・スミスは、神殿が近くにありながら利用しないときの結果について、次のように警告しています。「亡くなった親族の身代わりに行くべき〔神殿の業〕をないがしろにする聖徒たちは、自らの救いをも危うくしているのである。」²

神殿の儀式に永続する重大な意味があることは確かですが、同時にチャレンジにもなります。わたしはここで、教会員が神殿の本質をよく理解するために役立つ幾つかの見解を紹介するとともに、神殿の礼拝に備える方法について提案し実助言を添えたいと考えています。

「神殿の業」において「働く」こと

神殿の業は奉仕の業です。神殿はわたしたちがほかの人々のために何かをする機会を与えてくれる場所です。ヒンクレー大管長は最近行われた神殿の奉獻式で、神殿に参入することによって本人に与えられる恵みを強調しすぎるのではなく、神殿の業において「働く」ことに注意を向けるよう提案しました。神殿の参入によって得られる個人の祝福は非常にたくさんあることは事実ですが、神殿は働く場所であって、献身し義務を果たすことを求められているという事実を見失ってはなりません。

神殿の業は、伝道に出ることや、だれかに緊急支援を行

うホームティーチングや家庭訪問などの教会の務めと異質のものではありません。これらの務めを果たすには、何かを要求されたり、犠牲を払うよう求められたりすることがあります。預言者は、これと同じ気持ち、同じ姿勢で神殿に参入することを考えるよう勧めています。神殿に参入することによって、奉仕するのであり、それは利己的な行いや自分を中心にした行動であってはならないのです。救い主はこうに言われました。「自分の命を救おうと思う

者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。」³

もしわたしたちが自分のためだけに神殿に参入するとしたら、霊的な祝福を最大限に受ける機会を自ら拒むことになるかもしれません。神殿に参入するときに何を行っているかを考えてください。わたしたちが「働く」と呼んでいる活動の範疇に入るものかどうか、それとも異質のものかどうか。往々にして、働くということは、難しく、チャレンジを伴い、時には退屈な場合もあります。そうでなければ、娯楽と考^えていいはず^{です}。働くためには自ら積極的に取り組む必要があります。このような意味からすると、もし神殿の参入を何か^が与えられるのを待つ、受け身のものと考^えているとしたら、神殿で得られるすべてを得ることができないかもしれません。

儀式執行者として神殿に入る場合と参入者として入る場合では明らかな違いがあります。儀式執行者は神殿で働くときに、まさしく働いているという感覚を抱きます。

手順の暗記をはじめ、なすべきことはたくさんあります。この努力を通して、儀式執行者は儀式に精通し、学習し、いっそう成長する機会を得ます。わたし自身が若いころにマタイ神殿で肉体労働をしたときに気づいたように、進んで働き、奉仕することによって霊的な導きを受けるための心の準備をすることができます。

確かに神殿は避け所であり、自分を知り理解する場所ですが、神殿に行って多くの恵みを得るには、つらく、厄



「わたしはすべての会員の方々に、神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、推薦状を貴重な財産と考^えて大切に^し、これまで以上の努力を払って主の宮に参入し、そこで受ける御霊と祝福にあずかるようにと、……強くお勧めします。」
——ゴードン・B・ヒンクレー大管長



救い主が教えられたたとえと同じように、
神殿の儀式には単純そうに見える部分がありますが、
霊的に研ぎ澄まされた目を持つ人々は、その中に
深遠な洞察を得ているのです。

介で、また厳密な、骨の折れる仕事を実際に行うことが必要です。多くの神殿が建設されたことによる祝福の一つは、多くの会員が参入できるだけでなく儀式執行者として奉仕できることです。

さらに、奉仕する姿勢を持つことによって、慣れ親しんだものを新しい観点から見ることができます。神殿の儀式における教え方と聖文に登場するたとえの教え方の間にある共通点を考えてください。両者とも様々なレベルの意味があります。救い主が教えられたたとえの多くは、それを聞くほとんどの人にとって難解なものでした。しかし、一部の人にとってはありふれた単純な話でした。例えば、10人のおとめ、タラント、迷い出た羊、やもめと不義な裁判官、放蕩息子^{ほうとうしこ}のたとえには、物語があり、だれにでも分かるメッセージがあります。しかしその同じ物語の中に、王国の中心を成す基本的な原則を説き明かす途方もなく大きな真理をはっきりと見ることができます。同じように、神殿の儀式には単純そうに見える部分がありますが、霊的に研ぎ澄まされた目を持つ人々は、その中に深遠な洞察を得ているのです。

死者に関する基本的な教義

神殿が果たす中心的な役割の一つは亡くなった先祖のために儀式を執行することです。神殿の儀式を間違いなく、完全に執行する必要性について考えるときに、次の力強い聖文が心に浮かんできます。

「あなたがたはこの手順をととても細かいと思うかもしれませんが、しかし、あなたがたに申し上げます。これは、福

音を知らずに死ぬ者の救いのために、主が創世の前に定めかつ備えられた儀式と備えに従うことによって、ひたすら神の御心^{みこころ}に応じるためなのです。……

……彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。それは、パウロが先祖について、わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないと言っているように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」⁴

ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)が受けたこの力強く、意義深い示現について考えてください。

「このようにして、真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者に、福音が宣べ伝えられた。

これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪^{ゆる}の赦しのための身代わりのバプテスマ、^{あんしゅ}接手による聖霊^{たまもの}の賜物について教えを受けた。

またこのほかに、肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神のように生きるための資格を得るうえで知っておく必要のある、福音のすべての原則が教えられた。」⁵

生者に関する基本的な教義

神殿は啓示、靈感、瞑想、そして平安の場所であり、自分自身を取り戻し、思いを明確にし、祈りの答えを見いだし、礼拝と奉仕から得られる満足感を味わう場所です。

主は預言者ジョセフを通して次のことを明らかにされました。「すべての聖約や契約、きずな、義務、誓詞、誓言、

履行、関係、交際、期待がなされ、また交わされるとき、これらが油注がれた者の仲立ちに〔より〕……この世においても永遠にわたっても、この力を持つようにわたしが地上で任じた油注がれた者によって、約束の聖なる御霊により結び固められなければ、これらは死者の中からの復活の時も、その後も、まったく効験や効能、効力がない。……この目的で結ばない契約はすべて、人が死ぬと終わるからである。』⁶

話やレッスンや模範を通して「結婚の新しくかつ永遠の聖約」⁷が持つ至高の価値を教え合おうではありませんか。神殿で男女が神権によって結び固められるとき、新しい家族が組織されます。わたしたちは新しいワードや支部、あるいはステークが組織されるときに喜びを表します。教会の基本単位である永遠の家族が新たに組織されるときに、もっと喜びを表すべきではないでしょうか。神権を通してこの新しいユニットを発足させる方法の一つしかありません。それは主の宮において行わなければなりません。教会の召しはいずれ解任されますが、家族という組織における永遠の役割から解任されることはありません。

教義と聖約の中で説明されているように、「わたしたちが語っていること、すなわち地上で記録し、すなわちつなぎ、かつ天でもつなぐ力があるということは、ある人々には、非常に大胆な教義であると思われるかもしれません。しかしながら、世のあらゆる時代において、主がある人に、あるいはある人々の集団に、実際の啓示によって神権の施しを授けられたときはいつでも、この力が常に授けられてきたのです。したがって、何事であろうと、それらの人が権能によって、主の御名^みによってなし、正しくかつ忠実に行い、それについての適切かつ正確な記録を記したことは、大いなるエホバの定めによって地上でも天でも一つの律法となり、取り消せないものとなったのです。』⁸

エンダウメント

エンダウメントにはどのような意味と本質があるのでしょうか。ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこのように説明しました。「あなたのエンダウメントとは、主の宮においてこれらすべての儀式を受けることです。これらはあなたがこの世を去った後に、番人として立つ天使たち

の前を通過して御父の前に行くために必要な儀式です。……そして永遠の昇栄を手に入れるのです。』⁹

「エンダウメント」という言葉には贈り物を授けられること、ヤング大管長が語ったように永遠の旅路にとって価値のある何かを受けることという意味があります。主はわたしたちが人生をもっと完全に、もっと豊かに楽しむことができるように、霊的な力と守りを祝福しておられます。

神の王国における最高の祝福は主の言葉に従うことにより、イエス・キリストの恵みによって与えられます。キリストの完全な恵みは、聖約を交わし、守ることを含めて、戒めを守る者たちに授けられることを末日の啓示は明らかにしています。「あなたがたは、わたしの戒めを守るならば、父の完全を受け、わたしが父によって受けているように、あなたがたはわたしによって栄光を受けるからである。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは恵みに恵みを加えられるであろう、と。』¹⁰ 教義と聖約はさらにこのように説明しています。「しかし、聖約を守り、戒めに従ってきた者は幸いである。彼らは憐れみ^{あわれみ}を受けるからである。』¹¹

聖約に力がある理由の一つは、特に神聖な聖約には生活を変える力があるからだと言えるでしょう。この、生活を変える力はどこから来るのでしょうか。神と聖約を交わすとき、わたしたちは天の御父(わたしたちを最もよく知っておられ、心の奥底で何を感じ、考え、どのような意図を持っているかをはっきりと御存じである御方)と約束を交わしているのです。これによって、約束を守ろうとする動機づけを受けることができます。さらに、神聖な聖約は通常の聖約や約束以上に強い力を持っています。なぜならば、約束の聖なる御霊(聖霊)によって結び固められる聖約を交わすことによって、交わした約束を守る力を授けてくださる神の恵みに特別に近づくことができるからです。

神殿の業の目的はイエス・キリストの贖いの効力を高めることです。聖約はわたしたちが自分を変えるための非常に有効な手段となります。このため、聖約を交わすことは神殿の特徴として浮き彫りにされており、とりわけエンダウメントについては儀式を構成する中心的な要素となっています。バプテスマの聖約、聖餐、^{せいさん} 接手^{あがな}は皆、どのように救い主と救い主の贖いの犠牲を中心としているか、そして

どのように生活を変えるよう促しているかを深く考えてください。同様に、エンダウメントにおいて交わす聖約は、さらに大きな変化とキリストのような行動へとわたしたちを駆り立ててくれるのです。別の言い方をしてみましょう。いっそう大きな恵みである完全な贖いを受けるにはどうすればよいのでしょうか。聖約を交わすこと以外に方法はありません。そして聖約は神権の鍵によって執り行われる儀式によってのみ交わすことができます。¹²預言者ジョセフ・スミスはこのように教えました。「再び生まれるためには儀式を通して神の御霊によらなければならない。」¹³

わたしたちはこれらの真理を通して、神殿の業の持つ霊的な力と、その力が聖約によってどのように個人の生活に入り込んでくるかを理解することができます。その後、聖約を守ることによって、この世と永遠にわたって約束されている祝福にあずかることができるのです。

神殿での経験をいっそう豊かにするための具体的な方法を幾つか考えてみましょう。

標準

敬虔さは啓示を受けるために欠くことのできない鍵の一つです。約束された啓示を受けるには主の宮の神聖さを

維持しなければなりません。敬虔な気持ちで神殿に入り、神殿の持つ美しさと尊厳と厳粛さをそのままに神殿を後にするならば、神殿は生活の中で大切な位置を占めるようになります。この敬虔さを持つには、神を心から尊敬する態度を維持することが必要です。言葉や日常生活での一部の行いは、わたしたちの感じる敬虔さに影響を与えます。このため、経験する霊的な現れにも影響を及ぼすことになります。

神聖な事柄については、「黙るに時があり、語るに時があり」¹⁴です。わたしたちには神殿のエンダウメントの神聖さを維持する責任があります。神殿の外で神殿の言葉を使ってはなりません。また、神殿という神聖な囲いの中で品のない俗世的な言葉を使わないように注意する必要があります。神殿の外であっても粗野な言葉を使ってはなりません。主の宮に至っ



神殿が果たす中心的な役割の一つは亡くなった先祖のために儀式を執行することです。「わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないと言っているように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」



神殿の業の目的はイエス・キリストの贖いの効力を高めることです。エンダウメントにおいて交わす聖約は、さらにキリストのような行動へとわたしたちを駆り立ててくれるのです。

ではそのような言葉を使うことのできる場所はありません。行きすぎた冗談や高笑いも神殿で感じるべき敬虔さと尊敬の念を損なうことがあります。

ふさわしさ

神殿の祝福を受けたいと願うあまり、十分な準備ができていないまま無理に推薦状を受ける人がいます。しかし、神殿のふさわしさを身に付けることは、神殿の「霊的な事柄」を理解するための備えとなるのです。¹⁵ 生ける預言者は次のように勧告しています。「監督にとって、ワードの会員で、実生活の面で標準に達しているかどうか危ぶまれる人に推薦状を発行しないことは確かに容易ではないと思われます。そのような拒絶を受けると、申請者は不快に思うことでしょう。しかし、申請者は、ほんとうにふさわしくないかぎり、いかなる祝福も受けられず、ふさわしくいまま主の宮へ入ろうとする人には罪の宣告がその頭上に下ることを知っていなければなりません。」¹⁶

ガーメント

エンダウメントを受けた人はガーメントを正しく身に着なければなりません。ガーメントを身に着けることはわたしたちにとって最も大いなる特権の一つです。主の宮で交わした聖約を思い起こすという意味において、ガーメントが神殿の一部であることは正しいことです。この意味において、ガーメントを正しく身に着けることは、日常生活の中で神殿の礼拝を行っていることになります。

ガーメントの着用については大管長会の指示を守る必

要があります。

「ガーメントの着用は神殿の聖約を交わした人々に与えられる神聖な特権です。ガーメントは……適切に身に着けるなら、誘惑と悪から身を守る盾となるでしょう。

会員は神殿で与えられる指示に従って、昼夜を問わずガーメントを身に着けるよう求められています。服の様々なスタイルに合わせて、ガーメントに手を加えたり、指示に反した着方をしたりしてはなりません。そうした服が一般に受け入れられているとしても、同様です。下着として着用したまま無理なくできる活動であれば、ガーメントを脱ぐべきではありません。

会員はガーメントの着用に関する個人的な質問については、聖なる御霊の導きを得て自ら答えを出さなければなりません。この神聖な聖約は、会員本人と主との間で交わされたものであり、救い主イエス・キリストに従うという内面的な決意を表すものです。」¹⁷

適切な服装

神殿に入る際に適切な服装を心がけることにより、俗世への関心を忘れて、主の宮の儀式に参加する準備をすることができます。十二使徒定員会会長代理であるボイド・K・パッカー長老が神殿に参入する準備について述べた以下の勧告をよく考えてください。「体を洗い、高価でなくても清潔なものを身に着けて行けば、主は喜んでくださるでしょう。聖餐会や公式の場に出られる服装をすればよいのです。」¹⁸

神殿に入ると、わたしたちは皆、質素な白の衣類に着替

えます。男性は長そでのワイシャツと白のズボンを、女性は長そででくるぶしまでの丈がある白のワンピースまたは白のブラウスと白の丈長のスカートを着用します。神殿内で白の衣装を身に着けることは、清さと自分の罪から清められることを象徴します。これはわたしたちが天の御父のもとへ戻るときに望む状態を表しています。白の衣装に着替えることは神の前ですべての人が同じであること、天の御父はこの世の地位ではなく、わたしたちの思いと心を御覧になることを思い起こさせる意味も含んでいます。

神殿で結婚する女性は、神殿の標準の衣服と同じように控えめなウェディングドレスを着用します。「神殿で着用するドレスはすべて、白の長そでで、控えめなデザインと布地であり、過度の装飾のないものでなければならない。生地が薄い場合は裏地を付ける。神殿内で女性がズボンを着用することは認められない。神殿の儀式の際に取り外しができる場合を除いて、花嫁のドレスは、すそを引きずるほど長くしてはならない。」¹⁹

結び固めの儀式

最後に、特に亡くなった親族に対して神殿が持つ力について考えてみましょう。何かの理由によって、この世で福音を完全に受け入れないまま死んでいった兄弟や姉妹あるいは親戚のことを考えては、涙を抑え切れなくなった経験がだれにもあるのではないのでしょうか。神殿で執り行われる結び固めは愛するすべての人とのきずなを取り戻す可能性を与えてくれます。聖約を忠実に守り続ける末日聖徒にとって、結び固めの儀式は力強い祝福となります。わたしはロレンゾ・スノー大管長(1814-1901年)が語ったこの深遠な約束からいつも大きな力と励ましと慰めを受けてきました。

「神はわたしたちに対する御自身の約束を果たしておられます。そして、わたしたちの行く末はすばらしく、栄光に満ちています。わたしたちは次の世において確かに……息子、娘たちを得るでしょう。すべてを一度に得ることがなくても、いつか得るでしょう。……道をそれた子どもたちのことで悲しんでいる人は、次の世においてその息子、娘たちを得るでしょう。試練や逆境を堪え忍び、復活を享受するならば、御子がなさったように、神権の力を通

して働き務め、ついにはすべての息子、娘たちを昇栄と栄光の道に戻すことができるのです。これは今朝、近隣の山々から太陽が昇ったのと同じように確かです。ですから、すべての子どもたちがあなたの示す道に従わなかったり、勧告に耳を貸さなかったりしても、悲しんではいけません。永遠の栄光を勝ち得て、神の救い手、王、祭司として立つときに、わたしたちは子孫を救うのです。」²⁰

結び固めには聖約と結びついた大きな力があります。わたしはこれらの永遠の真理と聖約が世の基が据えられる前から与えられていて、もしわたしたちが心と思いを整えてそれらを受けるならば、生活の中に祝福が与えられることを証します。□

注

1. 「伝道と神殿、そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号, 60
2. *History of the Church*, 第4巻, 426
3. ルカ9:24
4. 教義と聖約128:5, 15。ヘブル11:40も参照
5. 教義と聖約138:32-34。1ペテロ4:6も参照
6. 教義と聖約132:7
7. 教義と聖約131:2
8. 教義と聖約128:9
9. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットソー選(1941年), 416
10. 教義と聖約93:20
11. 教義と聖約54:6。モロナイ10:33も参照
12. 信仰簡条1:3-5参照
13. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 162
14. 伝道3:7
15. 1コリント2:11-16参照
16. ゴードン・B・ヒンクレー「神殿を清く保つ」『聖徒の道』1990年7月号, 59
17. 大管長会からの手紙, 1996年11月5日付
18. 『聖なる神殿』15参照
19. *Bulletin*, 1992年, 第1号, 2ページ
20. *Millennial Star*, 1894年1月22日付, 51-52。ボイド・K・バックー「現代の道徳的環境」『聖徒の道』1992年7月号, 70も参照

死すべき状態を 生じた選択

墮落は永遠の命への扉を開けるうえで
必須の栄えある行為でした。



地域幹部七十人
ジェス・L・クリステンセン

わたしのすばらしい伴侶^{はんりよ}が子どもたち
を出産する際に見せた偉大な愛と勇気
を思うと、驚愕せずにはいられません。
出産に伴う痛みと苦しみがすぐに忘れ

去られ、家庭に幼い子どもを迎える喜びと幸福が取って代
わってしまうことに驚きます。アダムとエバが、「偉大な3幕
劇」¹、すなわち偉大な幸福の計画と呼ばれる計画の第2
幕の始まりとも言える選択を行い、禁断の実を食べるこ
とを決断したとき、一体どの程度のことを理解していたの
だろうかと考えます。この場面では、御父なる神、エホバ、
アダム、エバ、そしてルシフェルが登場します。第1幕の前
世と第2幕の現世の幕間にある出来事の舞台となったの
は、エデンの園でした。

舞台を整える

第1幕では、ある会議が行われました。ルシフェルはそ
の会議で、「全人類を贖^{あがな}〔う〕』という不可能な公約をし、そ
の見返りとして御父の「誉れ」を求めました(モーセ4:1参
照)。それに対して「初めから〔御父が〕愛し選んだ者」で
あったイエス・キリストは、御父の計画を遂行すると約束
なさいました(モーセ4:2参照)。そしてわたしたちは、選
択の自由を行使して救い主に従うことを選びました。する



と、「天では戦い」が起こり(黙示12:7-9参照)、ルシフェ
ルは「自分に従った者たちとともに地に落とされ」ました。²

第1幕の総指揮者および主人公は、父なる神でした。神
は御子を通して地球とエデンの園を造られました。

アダムは最初の人であり、前世のミカエルでした(教義
と聖約27:11参照)。彼は「地球の創造を助け、……栄光
に満ちた、驚嘆すべき人物です。エバもそれに似つかわ
しい人物で、成熟した、力強く、献身的な伴侶です。」³ ア
ダムとエバは園に置られました。アダムは「土のちりで…
…形造」られ、エバはアダムのわきから造られ、二人は夫
と妻となりました(モーセ3:7, 21-24参照)。

御父は二人に、増え、地に満ちるように、しかし善悪を
知る木から実を取って食べることはしないように命じられ



イエス・キリストは天の御父の指示の下で、
アダムとエバをエデンの園から追い出す前に
神の計画について教え、戒めを授け、
「皮の衣」を着せられました。

ました。ただし、御父はこのような付け加えられました。「それでも、あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。しかし、わたしがそれを禁じたことを覚えておきなさい。あなたはそれを食べる日に、必ず死ぬからである。」(モーセ3:17)このようにして、選択の自由の行使と死すべき状態を生じるための舞台が整えられたのです。

選択と結果

ルシフェルも初めからいました。彼は「人の選択の自由を損なおうとし……あらゆる偽りの父……となって」(モーセ4:3-4)、人類最初の両親を欺くために園へ行きました。彼は初めにアダムに語りかけましたが、アダムは屈しません

でした。ルシフェルは次に「エバもだまそうと」しました(モーセ4:6)。彼はエバにこう尋ねます。「園のどの木からも取って食べてはならないと、ほんとうに神が言われたのですか。」(モーセ4:7)人は過去の出来事について問われると、記憶に自信がなくなることがよくあります。ところが、エバは揺らぎませんでした。ルシフェルの最初の策略は失敗に終わりました。

ルシフェルは主の言葉を正面から覆して、このように主張しました。「あなたは決して死ぬことはないでしょう。」(モーセ4:10参照。教義と聖約29:41-42も参照)「それを食べる日に、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです。」(モーセ4:11)ルシフェルは真理の一部に偽りを加えて語りました。エバがその実を取って食べるなら、確かに彼女の目は開け、善悪を知るようになりますが、実を食べるだけでエバが瞬時に神のようになれるというのは、巧妙な惑わしでした。人生の目的は、神に会う準備を整えるための時間を与えられ、自らの経験によって善悪を学ぶことでしか達成できないのです(アルマ12:22-26;教義と聖約29:39参照)。

ルシフェルの提案を聞いたエバは、禁断の実が食べるに良く、つまりおいしく、見た目も美しいことに気づき始めます。ルシフェルは「客の目を引き、欲をあおる方法をよく知っています。」⁴そして、エバは禁断の実を取って食べることを選びます。その後、彼女はアダムにも実を食べるように勧めます(モーセ4:12参照)。アダムは最終的に、妻とともにいるようにという神の戒め(モーセ4:18参照)が、実を食べてはならないという戒めよりも重要であると判断します。このようにして、誘惑に直面したアダムは「人が存在するため」に「墮落」を選んだのです(2ニーファイ2:25)。

アダムとエバの選択は、わたしたちが行う選択と同じように、結果を伴うものでした。女の子孫であるイエス・キリストの「かかとを砕く」ルシフェルの力のはつかの間のものでしかありません。なぜなら、救い主には「〔彼の〕頭を砕く力があるからです(モーセ4:21参照)。⁵ 光が闇を打ち消すように、救い主がルシフェルに打ち勝たれるので、わたしたちもその力を通してルシフェルに打ち勝つことがで

きます。主はエバについて、「〔彼女〕の産みの苦しみを多いに増す。〔彼女〕は苦しんで子を産む」と言われました(モーセ4:22)。「神の計画により」、エバは母親となり、「子供を養い育てるという主要な責任」を受けます。⁶ アダムについては、地は「〔彼〕のためにのろわれ〔る〕」と告げられました。地は「いばらとあざみ」を生じ、「〔彼〕は顔に汗してパンを食べ〔る〕」とされました(モーセ4:23-25参照)。「神の計画により、父親は……生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。……父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」⁷そして、アダムとエバがこの最も美しい園から追い出されたことにより、死すべき状態、すなわち第2幕が始まったのです。ただし、二人は神の計画について教えられ、戒めを与えられました。神は二人に、裸を覆うための「皮の衣」をお与えになり(モーセ4:27)、守りと約束なしに園から出すことはされませんでした。このときの衣は、わたしたちが御父の教えに従うときに享受する、霊と肉体の両方に対する守りを表しています。

園を追い出されて神の前から締め出されたことを知ったアダムとエバは、再び御前に戻ることを切望しました。彼らは選択の自由を行使して主の名を呼び、犠牲をささげて主なる神を礼拝し、御名をたたえました(モーセ5:4-5, 12参照)。

堕落と贖い

人類史上最も重要な3つの出来事とは、創造、堕落、そして贖いです。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は次のように述べています。「〔救い〕の計画を有効なものとしている基はイエス・キリストの贖いです。……ですからわたしたちは、その贖いの意味を理解するように努力しなければなりません。ただ、それを理解するには、まずアダムアダムの堕落について理解する必要があります。」⁸ わたしたちは末日聖徒として、禁断の実を取って食べるというアダムとエバの選択が究極的に良い選択であったこと、つまりわたしたちの進歩のために不可欠であったことを信じています。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876-1972



「わたしたちは、その贖いの意味を理解するように努力しなければなりません。」

ただ、それを理解するには、まずアダムアダムの堕落について理解する必要があります。」

年)は次のように教えています。「エデンの園に置かれたとき、アダムとエバは死ぬ必要がありませんでした。彼らは今日まで園の中で生き続けることができました。無限に生き長らえることができました。そのときには死がなかったからです。もっとも、彼らがあの木の実を食べなかったとしたら、とても不幸な結果になっていたでしょう。二人はエデンの園にとどまり続け、わたしたちは地上に来ること

ができませんでした。アダムとエバ以外にだれも存在できないからです。この理由から、彼らは実を取って食べたのです。』⁹

このことに関して、数え切れない疑問が投げかけられました。アダムとエバは禁断の実を食べた後の結果について、どの程度理解していたのでしょうか。なぜサタンの言葉はエバの心を動かしたのに対し、アダムは動じなかったのでしょうか。ほかに方法はなかったのでしょうか。園にいたときのアダムとエバの意図や心情についてほとんど知られていないため、こういった疑問には回答の出しようがありません。ですから、聖文や生ける預言者が説くつもりのないことについて、心を悩ませる必要はありません。重要なのは、主の御心^{みこころ}が行われたということです。アダムとエバは、増えて、地に満ちるようにという最初の戒めを守りました。二人の体は変えられ、死すべき状態、親としての務め、そして来るべき死が与えられました。家族関係を永続させることが可能になりました。十二使徒定員会のダリン・H・オックス長老は、墮落が「永遠の命への扉を開けるうえで必須の栄えある行為だった」と語っています。¹⁰ この行為の結果、わたしたちは地上に来る機会に恵まれたのです。

わたしたちは墮落を通してほかにも祝福を授けられています。ネルソン長老はこのように述べています。「生命自体と同様に大切な、選択の自由と責任という、密接なつながりのある二つの神の賜物^{たまもの}の働きを促したのです。『自由と永遠の命を選ぶことも、……束縛と死を選ぶことも』わたしたちの自由となったのです。』(2ニーファイ2:27) 選択への責任なくして、選択の自由の行使はあり得ません〔教義と聖約101:78; 134:1参照〕。』¹¹

わたしたちは、愛し、信頼してくださる天の御父によって地上に置かれました。御父は、地球と呼ばれるこの体験の場でわたしたちが選択の自由を行使し、進歩することを望んでおられます。

墮落と喜び

わたしと妻は、子どもたちの進歩成長する姿を見守る中で、彼らが行った数多くの選択に胸躍る思いをしてみました。また、娘や義理の娘たちが天の御父のもとから来た

貴い、小さな霊をこの世に迎えるときに表した愛と勇気を見ると、仰天します。一人一人の命が誕生する度に、墮落がなければ誕生、苦痛、悲しみ、病気、健康、愛、死を経験できなかったこと、すなわち永遠の幸福を見いだすことができなかったことを思い出します。また、救い主の偉大な贖いの犠牲がなければ、わたしたちは死を克服することも、罪の赦し^{ゆるぎ}を受けるために悔い改める機会を与えられることもありませんでした。イエス・キリストは、わたしたちが御父のもとに戻り、家族とともに昇栄を受けられるようにしてくださいました。主はわたしたちの救い主、友、贖いによる霊の父、墮落からの贖い主、命と光そのものであり、生ける天の御父の生ける御子なのです。

現世の生涯を始めるという選択について理解することは、御父の栄えある計画について理解するうえできわめて重要です。第1幕である前世で救い主に従うことを選んだわたしたちは、正しいことを行いたいと願うなら、また、第2幕である現世で、与えられている選択の自由を賢明に行使したいと望むなら、大いに祝福を受けることでしよう。

□

ジェス・L・クリステンセン長老は、2001年10月、ユタ州北地域の地域幹部七十人を解任されました。

注

1. ボイド・K・バッカー, *The Play and the Plan*, 大学該当年齢のヤングアダルトを対象とした教会教育システムファイヤサイド, 1995年5月7日, 2参照
2. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 357
3. リチャード・G・スコット「偉大な幸福の計画を実践する」『聖徒の道』1997年1月号, 84
4. ジェームズ・E・タルメージ, "A Greeting to the Missionaries", *Improvement Era*, 1913年12月号, 173
5. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』51参照
6. 「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号, 24
7. 『聖徒の道』1998年10月号, 24
8. 「不変の原則」『聖徒の道』1994年1月号, 39-40
9. Conference Report, 1967年4月, 122
10. 「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号, 81
11. 『聖徒の道』1994年1月号, 40

「教会の強さ」

悔い改めて信仰に立ち返り、
良い教会員となったある
若い男性について、ゴ
ードン・B・ヒンクレー大管長はこの
ように述べました。「これが主の業
のすべてではないでしょうか。救
い主はこう言われました。『わたし
がきたのは、羊に命を得させ、豊か
に得させるためである。』(ヨハネ10:
10) この世のものには恵まれなくても、この
わたしの友人たちは豊かな生活をしています。
彼らのような人々こそ教会の力なのです。彼らの
心には、穏やかながらも微動だにしない確信が
あります。『神は生きておられる』『わたしたちは神
に対して責任がある』『イエスはキリストであり、



道であり、真理であり、命であられる
(ヨハネ14:6参照)』『この業は御父
と御子の業であり真実である』『喜
びと平安と癒しは、教会の教えの
中で述べられているように、神の
戒めに従って歩むときにもたらされ
る(教義と聖約89:18参照)』という
確信があるのです。」(本誌、6-7ペ
ージ参照) ♡次に示す話はいずれも、

教会の強さとは、救い主のようになるため
に努力を続ける忠実な教会員そのものである
ということを如実に物語っています。クリスチャン
らしい生き方を通して友人や隣人に良い模範を
示すとき、福音に生きるこれらの教会員の力によ
ってこの偉大な業は前進するのです。

主の預言者

マリア・ソニア・P・アンティケナ

1996年5月30日午後3時、友人のロー
ナとわたしはフィリピン群島の一
つであるセブ島への旅を開始しました。
ゴードン・B・ヒンクレー大管長が次の日
の夕方に開かれるファイヤサイドでお話
をするのです。サイドカー付きのオート
バイに乗って港へ向かいました。港に
はわたしたちのほかにもフィリピン・イ
ロイロステークの教会員がセブ行きの
船に乗るために大勢集まっていました。
ローナもわたしも、この先どんな困難に
遭ったとしても、預言者に会うことにこ
の上ない価値があることを知っていま
した。

港に着くころには、大雨が降り始めま
した。台風のせいで旅行は中止になり、
大管長に会うチャンスはなくなってしま
うのでしょうか。「最初の試練ね。」ロー
ナがささやきました。しかし、その日の
うちに空模様のことなど忘れていまし
た。ほかの教会員たちの興奮は、わた
したちにも伝わってきました。主の預言
者の言葉をもうすぐ聞くことができるな
んて信じ難いような気持ちでした。

けれど、この旅はスムーズに事が運
びませんでした。乗っている船に浴用
の水がないことを知ってローナもわた
しもがっかりしました。「二つ目の試練

だわ。」わたしは思いました。その後、
もっと深刻な知らせが届きました。船
が混んでいるため、わたしたちの荷物は
ホールに積んだままになるというの
です。それでもわたしたちは肯定的に
物事をとらえようと思いました。

**そしてついにヒンクレー大管長と
ヒンクレー姉妹が、ワースリン長老と
エリサ夫人とともに入場して来るの
を見ました。涙が頬を流れました。
見回すと、周りの人々がみんな
同じ御霊を感じていることが
分かりました。**



翌日になり、船が港に着くと、今度はヒンクレー大管長がお話をする会場へ向かうバスに乗るために列に並びました。しかし、信じられない光景が目に見えました。最後のバスが立錫の余地もないほど満員になっているのです、ローナが「新たな試練」とでも言いたげな顔でわたしを見ました。けれど、わたしたちはあきらめずにタクシーを拾ってすぐに会場へ向かいました。

会場へ着いたときには、入り口は人であふれかえっていました。「一体会場に入ることができるのかしら」と心配になりました。落胆が心に忍び寄ります。「船に戻ってほかの人たちを待つことにしようか。」ローナが提案しました。

疑いの思いがわいてきたにもかかわらず、わたしはローナにきっぱりと言いました。「今、中に入らなかったら、二度と預言者に会えないかもしれないわ。」その言葉とともに、わたしたちは敢然と人込みの中を突き進んで行きました。大きなホールの中は、とても蒸し暑く、息が詰まりそうな気がしました。けれどついにわたしたちは、2階のボックスに二つ並んだ空席を見つけることができました。そしてうだるような暑さの中で席に着いて待っていました。

そしてついにヒンクレー大管長とヒンクレー姉妹が、十二使徒定員会のワースリン長老とエリサ夫人とともに入場して来ました。すると突然、それまでの不安やイライラ、そして暑さに対する感覚さえも消えてなくなっていました。会場のすべての聴衆が立ち上がり、「感謝を神に捧げん、予言者の導き」(『賛

美歌』11番)と歌い始めたとき、涙が頬を流れました。これまでは、教会機関誌や書物で預言者の言葉を読んだことがあるだけでした。でもこのとき、わたしは自分の目の前に預言者を見ていたのです。

見回すと、周りの人々がみんな同じ御霊を感じていることが分かりました。わたしの周りの男性も女性も、あふれ出る涙をぬぐっていました。

ヒンクレー大管長の話を聞いていると、大管長が現代における主の預言者であるという確信が体全体を温かく満たしました。ある聖句が心に浮かびました。「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

その瞬間、教会、主イエス・キリスト、そして主の預言者に対するわたしの証は御霊によって強められました。主の預言者に会って、預言者の証の力を感じる機会を与えられたことに感謝しています。何よりも、このことはわたしの人生において、お金では決して手に入れることのできない経験をするという偉大な機会となりました。

マリア・ソニア・P・アンティケナはフィリピン・イロイロステーク、イロイロシティ第1ワードの会員です。

「兄弟と呼んでください」

ホセ・バタラー・サラ

4月の朝の太陽の下で、広々としたモダンなクリーム色の建物は、隅々まで光に照らされていました。緑の芝生の中に建つその建物は、学校のように見えました。カーペット洗浄サービスのカタログを小わきに抱えて、わたしたちは玄関のドアを入って行きました。

婚約者のエリカが、訪問販売を手伝ってくれていました。わたしは勤めていた会社のために新しい顧客を開拓中でしたが、赤いれんがの床でこつこつと音を立てました。廊下の突き当たりまで来たとき、この建物が教会であることに気づきました。この建物内での慣習や規則が分からないので、注意深く奥へ入って行きました。

この教会には結婚式でよく見かけるような赤いじゅうたんがあるのだろうかと思惟しました。けれどこの建物の内部はむしろ簡素であり、しかも優雅でした。

人懐っこい子どもと若者が数人、わたしたちにあいさつしてくれました。エリカは訪問販売のことでだれに会えばいいのかと尋ねました。

「ロベルト・バスケスだよ」と一人の少年が答え、「ほくが呼んで来てあげる」と言いました。

わたしはエリカの方を見て、このように言いました。「もし、教会に入るように勧められたら、ほかの約束があるからと言って君の家に逃げ込むことにしよう。」

わたしは両親の所属する宗教に十分満足していました。熱心な信者ではあ



**この建物が教会であることに気づき、
注意深く奥へ入って行きました。そのとき、
人懐っこい子どもと若者が数人、
わたしたちにあいさつしてくれました。**

りませんでした、はみだし者というわけでもありませんでした。季節に応じて教会に出席するという、多少はみだし気味の子羊の一人でした。けれど、説教や、聖書の勉強、道徳のレッスンを通して、愛する天の御父の存在を確信するようになっていました。また、その御子イエス・キリストがわたしたちの罪を贖ってくださること、そして聖霊がいらっしゃることも確信していました。戒めと儀式についても学びました。また現世のわたしたちが疑いもなく不完全な存在であることも知っていました。

罪の赦しを得るために金銭をささげることには反対でした。また、偶像礼拝その他、神の愛と正義にそぐわない迷信や教訓も受け入れていませんでした。仲介役の聖者を介せず、直接神に祈り礼拝するように教わっていました。愛、謙遜さ、奉仕について信じ、他人を裁くことが危険な行為であると知っていました。また赦しによる慰めを信じてい

ました。わたしの通っていた教会には、高潔で義にかなった、模範的な教会員が大勢いました。ほかの宗教を受け入れることはわたしにとってほとんど不可能であると思われました。

エリカの手を取って、教室のような部屋に入って行きました。

そこでバスケス氏に会いました。

「どうお呼びすればよろしいでしょうか。教父様、神父様、それとも牧師様ですか。」わたしは尋ねました。

「兄弟と呼んでください」とバスケス氏は答えました。そして翌日の聖餐会と一緒に出席するよう、わたしたちを招待してくれました。自分でも驚いたことに、わたしは彼の招きに応じていました。

翌日、エリカと二人で日曜学校のクラスに行きました。ニーファイ、モロナイ、ヒラマンなどの名前を教わりました。通訳者を伴わずに外国に迷い込んでしまったような気持ちでした。それにもかかわらず、耳にする概念に対して、二人ともある種の懐かしさを感じていました。その言葉は聖書中の言葉と似ていました。そこで手を挙げて立ち上がり、常に御父の御心に従われたイエス・キリストは、わたしたちにとって謙遜さの偉大な模範であると、確信を込めて述べました。教師であるジョルジュ・モントーヤ兄弟が、わたしの言葉に同意を示したので、わたしは驚きました。信者でもない人物(教会員からは、わたしはそのように思われているだろうと思ったのです)が意見を述べるができるうえ、教師がそれに同意を示すとは、一

体どんな教会なのだろう。

そこでわたしたちは続けて教会に通いました。モルモン書を受け取り、わずか1週間で読み終わりました。証を得て、宣教師から福音を学びました。そして1996年5月3日に、バプテスマと確認の儀式を受けたのです。

バプテスマの翌日は、頭上に100ワットの電球をつけて歩いているような気分でした。あまりにも幸福だったので、見知らぬ人を助けるためにわざわざ回り道をするほどでした。

翌月、わたしはエリカと結婚しました。そして9月29日に妻にバプテスマを施すという特権に恵まれました。1年後、わたしたちはメキシコのメキシコシティー神殿で結び固めを受けました。

中でもうれしかったことは、今まで信じていた宗教と離別したように感じたことが一度もなかったことです。イエス・キリストの真実の教会によって、これまで持っていた知識が受け入れられ、完璧なものとなったのです。わたしの改宗は、まるで曇り空の一条の光が、晴れた空の明るい太陽の光に変わったかのような感じでした。手でこいでいたボートに、だれかがモーターをつけて始動させてくれたような感じでした。

ほかの教会にも義と善に満ちて霊的な備えのできた人が大勢いることを知っています。そういった人々は、常に聖霊を伴侶としているわけではないにもかかわらず、キリストの光による輝きを受けています。このような善良な人々に、ひときわ明るいイエス・キリストの光さえあれば、ほかの教会の放つランタン

や街灯、ろうそくなどの光は不要であることを理解してもらうために、どのような助けができるだろうかと考えています。純然たる真理以上に偉大な真理は存在しません。そして純然たる真理は、世界中の善良な人々のすべてが持つほんとうの信仰を受け入れ、完全なものとするのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会が、完全な真理を有する唯一の教会であることを今では理解しています。そして主に従いたいと望むすべての人のために、イエス・キリストが両腕を差し伸べ、御自分の家の門戸を開いておられることを知っています。

4月のあの朝、カーペット洗浄サービスの契約を取ることはできませんでした。その後も教会員に対して、1メートル四方のカーペット洗浄契約さえ取りつけたことはありません。にもかかわらず、あの日のわたしはより多くのものを得たと確信しています。それは何千倍もです。だれも想像することのできないほど多くのものだったのです。

ホセ・バタラー・サラはメキシコのメキシコシティ・エルミタステーク、エルミタワードの会員です。

卵、そして愛の贈り物

クラウディア・ウエイト・リチャーズ

わたしはコンゴ民主共和国の首都であるキンサシャに数か月間住んでいました。そんなある日、支部の扶助協会会長に家庭訪問をしてもいいか



と尋ねられました。会長には長い間訪問を見合わせてもらっていたので、その間に少しはフランス語を学ぶ時間を持つことができました。当時わたしの家族は支部で唯一の北米出身者でした。支部にはフランス語を話す女性も何人かはいましたが、大部分は部族の言葉であるリンガラ語を話しました。孤独感を抱かないように努力してはいましたが、自分は支部の姉妹たちとは非常に異なった存在であると感じていました。

扶助協会の会長は、夫に先立たれ、二人の息子を一人で育てていました。いつもゆったりとした美しいほほえみをたたえていました。わたしを訪ねて来てくれたとき、彼女は主の御霊を伴っていました。

彼女はあいさつを済ませると、英語の聖書を持って来るようにわたしに言いました。メッセージを理解することができるように、とてもゆっくり話してくれました。エペソ人への手紙第2章19節を、彼女のフランス語の聖書と一緒に読み、次に英語で読みました。聖句は次のようなものでした。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」

彼女の選んだ聖句を読んで、わたし

卵を受け取ることが申し訳なく思われ、断ろうとしました。けれどそれが愛を込めた贈り物であると、彼女の目が語りかけました。

はほほえみました。扶助協会の会長は、わたしの経験している苦労を理解していたのです。

この心優しい姉妹は帰り支度をするとき10個の卵をプレゼントしてくれました。それは彼女にとって犠牲であることをわたしは知っていました。受け取ることが申し訳なく思われ、断ろうとしました。けれどそれが愛を込めた贈り物であると、彼女の目が語りかけました。

卵を受け取り、わたしたちは彼女のもたらした愛に包まれました。愛が家中に満ちあふれ、すべてが輝いて見えました。彼女とともに祈った後、アフリカの民族衣装を身にまとった彼女の小さく、優雅な姿が庭を横切って去って行くのを見送りました。もはや自分が異国人だとは思いませんでした。わたしは神の聖徒たちに囲まれているのだと分かりました。

クラウディア・ウエイト・リチャーズはマレーシア・クアラルンプール地方部、クアラルンプール支部の会員です。

御存じでしたか？



わたしは行きます

ヒーパー・C・キンボール長老は、使徒に聖任されて2年後の1837年、カートランド神殿の中に座っていたとき、預言者ジョセフ・スミスからイングリランドへ伝道に出ることが主の御心であると、静かに告げられました。北アメリカ以外に召される最初

の宣教師になるのです。

キンボール長老は、このように述べています。「この伝道について考えたとき、とても耐えられそうにありませんでした。わたしの肩にかかった

重荷にほとんど押しつぶさ

れそうでした。」しかし、キンボール

長老は召しを受け、イングランドに赴任しました。気持ちが高まり、リバプールに着くと船から跳び降りたほどでした。「天の御父の御心を理解した瞬間、わたしはどんな困難にも立ち向かっていこうと決心しました。神が全能の力をもってわたしを支え、わたしに必要なあらゆる資質を

与えてくださると信じたからです。」(History of the Church, 第2巻, 489-490参照)

キンボール長老の伝道は、その後数年にわたるイングランドでの多大な成功の始まりとなりました。数千の人々が福音を受け入れ、教会の大いなる力となったのです。



指導者へのヒント

教会での召しが何であろうと、主は助けを約束しておられます。トーマス・S・モンソン第一副管長は、次のように述べています。「『今日の世の中における最大の力は、人を介して現れる神の力』です。主の用向きを行ってれば、主の助けは約束されています。でもそれには、わたしたちがふさわしければ、という条件があります。……謙遜な祈り、勤勉な備え、そして忠実な奉仕を通して、わたしたちは自らの神聖な召しを果たすことができます。」「(永遠の航海)『リアホナ』2000年7月号, 56, 59) □



それは7月と8月の出来事でした

教会歴史において7月と8月に起きた重要な出来事を幾つかご紹介します。

1835年7月3日——マイケル・H・チャンドラーが、エジプトのミイラとパピルスの巻き物を展示するために、オハイオ州カートランドを訪れました。預言者ジョセフ・スミスがその巻き物を翻訳しました。それはアブラハム書となり、現在、高価な真珠に収められています。

1837年7月30日——イングランドのプレストンで、9人がバプテスマを受けました。英国で初めての改宗

者でした。

1842年8月6日——預言者ジョセフ・スミスが、聖徒たちはロッキー山脈に定住すると預言しました。

1847年7月22~24日——開拓者の最初の陣営が、ソルトレーク盆地への1,000マイル(1万6,000キロ)の旅を終えました。

1877年8月29日——ブリガム・ヤング大管長が、ソルトレーク・シティーの自宅で76歳の生涯を終えました。彼は、ほぼ30年間大管長を務めました。

「リバプールの岸に跳び降りるヒーパー・C・キンボール」ゲーリー・L・カップ画。アブラハム書からの模写第1の一部。「説教をするジョセフ・スミス」マイケル・T・マルム画。荷車の写真/ウェルデン・C・アンダーセン。「アメリカのモーセ、ブリガム・ヤング」ケン・コーベット画

『リアホナ』 2002年8月号 の活用法

レッスンのためのアイデア

■「主の業のすべて」2ページ——ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、監督が才能を生かす機会を考案してくれたおかげで活発になった少年の話を述べています。才能を活用できれば、ワードや支部にもっと積極的に参加できる教会員を思い浮かべてください。あなたはその人を参加させるために、自分の召しを通してどのように働きかけることができますか。

■「知識と強さを得て、賢明に用いる」12ページ——リチャード・G・スコット長老は「視覚による学習はもとより、聖霊が皆さんに感じるように促してくださることから学ぶ力を養ってください」と勧告しています。最近心に感じた霊的な印象を書き出してください。これらの気持ちから、主は何を学んでほしいと思っておられるでしょうか。

■「のどのかわき」F14ページ——祈るときに、さらに強い意欲と信仰を持つには、どうしたらよいでしょうか。

今月号に採り上げられているテーマ	
愛	20, 25, 26, 42
贖い	26, 38
イエス・キリスト	22, 25, 38, F4, F7
祈り	26, F14
教えること	48
親としての務め	26
改宗	8, 42
家族歴史	F8, F12, F14
活発化	2
家庭の夕べ	48
家庭訪問	25
儀式	30
犠牲	42
奇跡	2, F10, F14
旧約聖書	F10
教会歴史	47
謙遜	F4
子ども	26, F7
指導性	2, 47, 48
初等協会	F12
信仰	26, F14
神殿と神殿活動	30, F2, F12
新約聖書ものがたり	F4, F7
聖約	30
聖霊	12
選択の自由	38
墮落	38
知識	12
伝道活動	8, 20
日記	F8, F12
奉仕	2, 25
ホームティーチング	7
模範	22
友情	8, 22
預言者	42

クイズ 以下の大管長会と十二使徒会の会員がそれぞれ専任宣教師として奉仕した場所をaからgの中から選んでください。

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1. ゴードン・B・ヒンクレー大管長 | a. カナダ |
| 2. ジェームズ・E・ファウスト副管長 | b. イギリス諸島 |
| 3. L・トム・ベリー長老 | c. ブラジル |
| 4. ニール・A・マックスウェル長老 | d. イングランド |
| 5. M・ラッセル・バラード長老と
ジェフリー・R・ホランド長老 | e. 合衆国北部 |
| 6. ジョセフ・B・ワースリン長老 | f. ドイツ, オーストリア,
スイス |
| 7. リチャード・G・スコット長老 | g. ウルグアイ |



専任宣教師

2002年5月(270期生)15人・海外7人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



あおき ともこ
青木 朋子
仙台伝道部
東京西ステーク
国立ワード



あかほり しんご
赤城 真悟
福岡伝道部
静岡ステーク
浜松第1ワード



いけむら はじめ
池 永 創
広島伝道部
我孫子ステーク
牛久第2ワード



いしかわ かつかず
石川 章和
広島伝道部
名古屋ステーク
春日井ワード



えんみ よしひろ
江嶋 義之介
東京南伝道部
奈良地方部
大和郡山支部



おおみね まりこ
大嶺 真理絵
東京南伝道部
長野西ステーク
沖縄ワード



おきずみ こうじ
奥住 幸二
札幌伝道部
大阪ステーク
大阪ワード



きくち れい
菊地 麗
東京北伝道部
旭川ステーク
篠路ワード



ささき りか
佐々木 理香
名古屋伝道部
盛岡地方部
北上支部



すずき あい
鈴木 愛子
札幌伝道部
町田ステーク
藤沢ワード



まえかわ しんいち
前川 真一
東京南伝道部
長野地方部
上田支部



まつやま ゆき
松山 弥生
札幌伝道部
鹿児島地方部
谷山支部



むらかみ あい
村上 愛子
東京南伝道部
東京北ステーク
坂戸ワード



やまぐち たくや
山口 卓哉
名古屋伝道部
東京北ステーク
川越ワード



よしぐら あきこ
吉倉 明子
東京北伝道部
静岡ステーク
静岡ワード



あかほり ひのと
赤城 飛人
オーストラリア・
メルボルン伝道部
東京西ステーク
府中ワード



いわの ゆみ
岩永 優美子
アリゾナ州
フェニックス伝道部
東京東ステーク
千葉ワード



きくち ひとみ
菊池 ひとみ
ワシントンD.C.南
伝道部
釧路地方部
網走支部



さいとう ゆういち
斉藤 裕一
ワシントン州
スポーケン伝道部
仙台ステーク
石巻支部



まつい あい
松井 愛世
カリフォルニア州
オークランド伝道部
京都ステーク
伏見ワード



まつもと けん
的場 恵
ユタ州ソルトレー
ク・シティ伝道部
東京北ステーク
川越ワード



やまだ つよし
山田 剛
カリフォルニア州
リバサイド伝道部
BYU第5ステーク
BYU第90ワード

*

*

お詫びと訂正

- 2002年4月号のチャーチ・ニュース16
頁、役員の変動の項で、日本鹿児島地
方部 第一副部長と第二副部長の名前
が入り替わっていました。正しくは、第
一副部長: Petersen, Dennis Curt 第
二副部長: 久木崎 真人 です(敬称略)。
謹んでお詫びし、訂正いたします。

皆さんの情報をご提供ください

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org
◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、
その他商品に関するお問い合わせは—
教会配送センター
TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

役員の変動

2002年5月11日から2002年7月9日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動 (敬称略)

- 熊本ステーク延岡支部
支部長: 丸岡 忠裕
- アジア北地域
地域幹部七十人: 中野 正之
地域幹部七十人: 新山 靖雄
地域幹部七十人: 関 恵基
- 東京南ステーク東京第一ワード
監督: Frogley, Clark
- 日本旭川ステーク
ステーク会長: 佐藤 良三
第一副会長: 岩山 勝幸
第二副会長: 関根 豊春
祝福師: 北山 明
- 仙台伝道部秋田地方部
地方部長: 田村 誠
第一副部長: 佐藤 浩行
第二副部長: 阿部 公能
- 日本札幌西ステーク
第一副会長: 守田 雅光
第二副会長: 久保 章
- 秋田地方部秋田支部
支部長: Checketts, Randy K
- 東京南ステーク洗足池ワード
監督: 七條 典明
- 仙台ステーク石巻支部
支部長: 川網 義朗
- 釧路地方部北見支部
支部長: 千葉 吉孝
- 奈良地方部大和郡山支部
支部長: 橋本 敏仁
- 奈良地方部奈良支部
支部長: 吹田 栄二
- 大阪ステーク関目ワード
監督: 船木 啓史
- 名古屋伝道部三重地方部
第一副部長: 藤田 芳夫
第二副部長: 金森 彦久
- 福岡ステーク中津支部
支部長: 川上 輝男
- 奈良地方部名張支部
支部長: 佐久間 一浩
- 大阪堺ステーク泉北支部
支部長: 外村 俊博
- 札幌伝道部釧路地方部
第二副部長: 加賀谷 拓也
- 東京東ステーク市川ワード
監督: 志津野 信一



「ルツとナオミ」 ジュディス・メア画

「モアブの女ルツはナオミに言った、『どうぞ、わたしを畑に行かせてください。だれか親切な人が見当るならば、わたしはその方のあとについて落ち穂を拾います。』」
畑の所有者ボアズはルツにこう言った。「どうぞ、主があなたのしたことにより報いられるように。どうぞ、イスラエルの神、主、
すなわちあなたがその翼の下に身を寄せようとしてきた主からじゅうぶんの報いを得られるように。」（ルツ2：2、12）

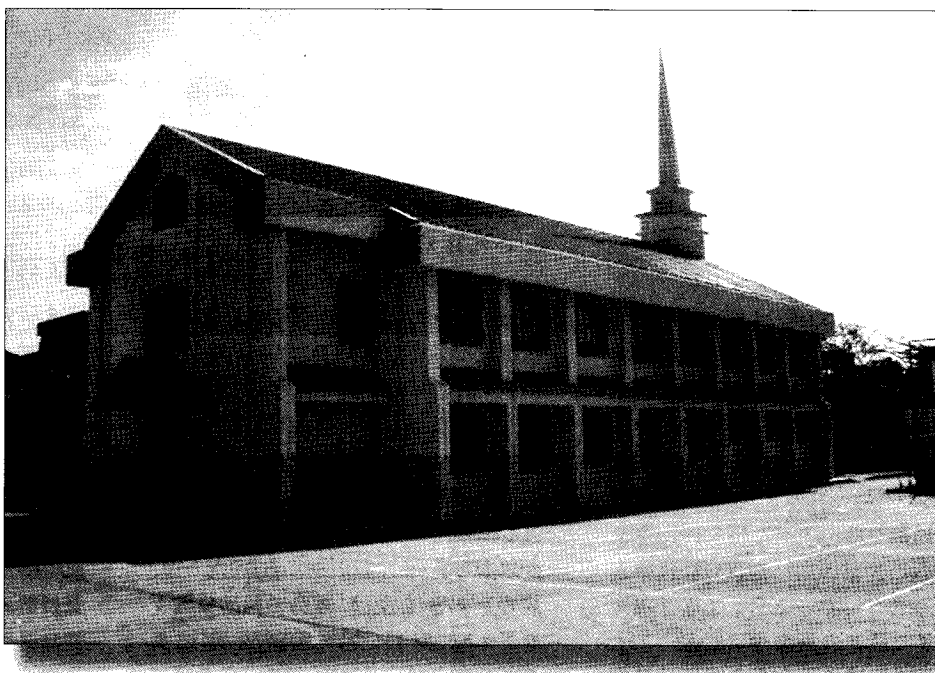


「わたしはすべての会員の方々に、
神殿推薦状を持つにふさわしい
生活をし、推薦状を貴重な財産と考
えて大切にし、これまで以上の努力を払
って主の宮に参入し、そこで受ける御霊^{みたま}
と祝福にあずかるようにと、わたしの持
てる限りの力を込めて、強くお勧めしま
す。」——大管長ゴードン・B・ヒンクレー
(デビッド・E・ソレンセン「神殿の業に関
する教義」30ページ参照)

神殿の写真 ©INTELLECTUAL RESERVE, INC.
承認または許可を得ずに転載・複写することを禁じる。

3つの国が初めて集会所を手にする

ティファニー・E・ルイス



スリランカにおける教会の最初の建物は、コロンボの聖徒たちの長年の祈りを象徴している。礼拝堂の奉献には300人以上の人々が出席した。

写真/アジア地域広報部の厚意により掲載。

このほどスリランカ、セルビア、インドで初めての集会所が奉献され、これらの国々に住む忠実な聖徒たちに祝福をもたらした。

スリランカ

スリランカで最初の集会所は2001年12月2日、コロンボにおいて、アジア地域会長会第二副会長を務める七十人のジョン・B・デイクソン長老により奉献された。スリランカ・コロンボ地方部と近隣の支部から300人以上の会員が奉献式に出席した。

教会が初めてスリランカに足を踏み入れたのは24年前のことである。コロンボ地方部は2000年10月22日に組織され、同日、礼拝堂の^{くわい}納入式が行われた。現在、コロンボには二つの支部がある。

「長年祈ってきたことが実現したのを喜んでいます」とコロンボ地方部のスニール・アーセキュラランテ部長は語った。「わたしたちは将来、ここにステークが組織される日を待ち望んでいます。」

セルビア

セルビアで最初の集会所は2002年1月19日、ベオグラードにおいて奉献された。ヨーロッパ東地域会長会会長を務める、七十人のダグラス・L・カリスター長老が奉献の祈りをささげた。約150人の教会員、政府官吏、地元の住民が出席した。

地元の人々は奉献式に先立って行われたオープンハウスに招かれて、教会

1月に奉献されたベオグラード礼拝堂は邸宅を改造したもので、周囲に大使館が建ち並ぶ市の中心部にある。「この建物には主の大使がいます」とドラゴミル・サビック地方部長は語った。

写真/スラジャン・ミハロビッチ



についての紹介を受けた。

宣教師が現在のセルビアに到着したのは1980年代のことであった。内乱状態が続いていたため、専任宣教師がセルビアに滞在した期間は一定ではなかった。しかし地元の会員たちは国家の揺れ動いた時代を通じて、忠実さを失わずに教会を支えてきた。

「セルビアの聖徒にとって、これは過去10年間生き抜いて、耐えてきたことに対する報いです」とベオグラード支部のセラジャン・ミハロビッチ支部長は新しい建物について語った。

新しい集会所は1930年代初頭に建てられた邸宅を改造したものである。市の中心部にあり、周囲には幾つかの外国大使館が建ち並んでいる。

「この建物には主の大使がいます」とベオグラード地方部のドラゴミル・サビック部長は語った。

インド

インドで最初の集会所は2002年2月2日、アジア地域会長会会長を務める七十人のH・ブライアン・リチャーズ長老

が奉献した。新しい建物はインド・ハイデラバード地方部のラジャムンドレー支部が使用する。遠くはバンガロールから10時間列車に乗ってやって来た人々を含めて400人以上の会員たちが奉献式に出席した。

地元地域の住民も新しい礼拝堂を歓迎した。礼拝堂の奉献に先

立って行われたオープンハウスには2,300人以上の人々が訪れた。インド・バンガロール伝道部のカール・E・ネルソン部長が主催したこのオープンハウスでは、訪問者を10人から20人のグループに分けて専任宣教師や支部の会員たちがクラスと礼拝堂を案内した。訪問者は見学が終わるまでに、宣教師から第1課と第2課のレッスンを受け、教会の補助組織プログラムの働きについて説明を受け、モルモン書のプレゼントを請求するために署名した。



2月に奉献されたラジャムンドレー支部の建物周辺には大勢の会員たちが訪れる。インドで最初のこの建物は、奉献に先立って行われたオープンハウスに2,300人以上の人々が訪れた。

写真／アジア地域広報部の厚意により掲載。

オープンハウス後の最初の日曜日には50人の子どもたちが初等協会に出席した。そのうち教会員は10人にも満たなかった。ほとんどは周辺地域からの訪問者だった。成人も何人か出席した。

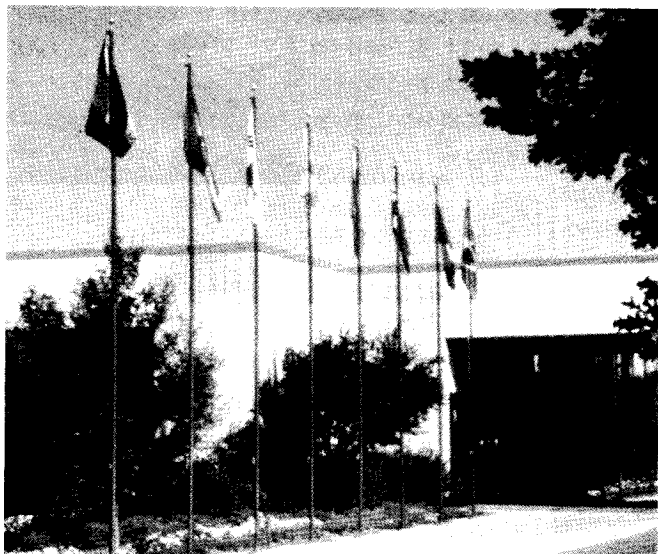
「人々は天の御父から与えられたこの奇跡に驚いています」とラジャムンドレー支部のパドマナンドム・チャランティ支部長は語った。

ラジャムンドレー支部は約20年前に38人の会員で組織された。現在、支部の会員数は400人を超えている。□

伝道部境界線の変更と新任の伝道部長

7月には110人以上の伝道部長とその夫人がふるさとへ帰り、新任の伝道部長たちが任務に就いた。教会の6万人の宣教師を最も必要とする地域へ派遣するため、幾つかの伝道部が新設され、また併合された。

このほど新任の伝道部長が訓練を受けた。ユタ州プロボの宣教師訓練センターに翻る世界各国の国旗。7月に110人以上の伝道部長が任期を終え、新任伝道部長が奉仕の業を始めた。



7月1日に7つの新しい伝道部が合衆国と西アフリカで新設された。ほかに5つの伝道部が近隣の伝道部に併合されたため、活動している伝道部の総数は335となった。

新設された伝道部は合衆国のアリゾ

ナ州メサ伝道部、コロラド州コロラドスプリングス伝道部、テキサス州ラボック伝道部、ワシントン州ケネウィック伝道部、アフリカのカボベルデ・ブライア伝道部、ナイジェリア・イバダン伝道部、ナイジェリア・ウヨ伝道部である。

オーストリア・ウィーン伝道部はド

イツ・ミュンヘン伝道部と合併して新たにドイツ・ミュンヘン／オーストリア伝道部となった。オランダ・アムステルダム、スイス・ジュネーブ、ベルギー・ブリュッセル伝道部は再編成されて、ベルギー・ブリュッセル／オランダ伝道部、スイス・ジュネーブ伝道部の二つになった。イギリス・ブリストル伝道部はイギリス・バーミンガム、イギリス・ロンドン、イギリス・ロンドン南伝道部に併合された。イタリア・パドワ伝道部はイタリア・ミラノとイタリア・ローマ伝道部に吸収された。ポルトガル・リスボン北伝道部の大部分はポルトガル・リスボン南伝道部に併合されて、ポルトガル・リスボン伝道部となった。ポルトガル・リスボン北伝道部の残る地域はポルトガル・ポルト伝道部に吸収された。

伝道部の管理ディレクターを務める七十人会長会のチャールズ・ディディエ長老によれば、この変更によって、必要性

の高い地域により多くの宣教師を派遣できるようになった。

最後に、リトアニア・ビリニウス伝道部はバルチック伝道部と改称された。ラトビアのリガに本部を置くこの伝道部はラトビア、エストニア、リトアニアの各国を含む。□

アジア北地域の新任伝道部長

伝道部	新部長
日本広島	ブラッドフォード・ベリー・バンクス

日本札幌	リチャード・K・ハンセン
日本仙台	アラン・マナー・バード
日本東京南	カール・ハート・バロック
韓国釜山	徐 熙哲

ワードおよび支部伝道活動の強化

大 管長会はこのほど、会員伝道とフェローシップ活動を強化する目的で、ステーキ伝道部を解体し、監督と支部長がユニットの伝道、定着活動に対する全体の責任を直接監督するよう指示した。

「経験からはっきり示されているように、伝道の働きは会員と宣教師が協力して求道者を見つけるときに、最大の効果を発揮します。」大管長会は神権指導者にあてた2002年2月28日付けの手紙でステーキ伝道の変更を説明した。「わたしたちは、このように取り

組み方を修正することによって、改宗と定着をさらに効果的に促進できるものと確信しています。」

ワード伝道主任とワード宣教師の召しはステーキレベルからワードレベルに移管され、監督または支部長の指示の下に行われることになる。ワードおよび支部伝道主任はステーキまたは地方部の指導者ではなく、監督または支部長に直接報告し、引き続きユニットの伝道活動の調整を行う。ワードおよび支部宣教師は従来と同様、福音を教えるために人々を備え、求道者と新

会員にフェローシップを行い、新会員に対してレッスンをを行い、会員たちの伝道活動を奨励する。この召しに特定の任期はなく、ワード宣教師は名札を付けない。

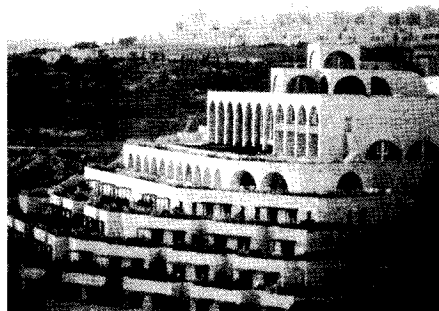
「責任はわたしたち一人一人にあります。……バプテスマを受けた一人一人が力づけられ、主の福音のぬくもりを感じるようになっていくのを見届けなくてはなりません」とヒンクレー大管長は説明した。（「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号、127）□

最近のニュースから

ナイジェリア神殿の鉄入れ式

2002年2月23日、ナイジェリア・アバ神殿の鉄入れ式が行われ、七十人であり、アフリカ西地域会長会会長であるH・ブルース・ストゥーキ長老が管理し、奉献の祈りをささげた。州や地域の政府の役人とともに、ナイジェリア南部のあらゆる地域から会員たちが鉄入れ式を見るために集まった。会員、政府役人、

部族の長など合わせて、およそ2,000人が式に参列した。



ブリガム・ヤング大学エルサレムセンターの閉鎖、無期限に続く

周 辺地域の相次ぐ暴動と政情不安のため、ブリガム・ヤング大学は付属のエルサレムセンターにおける授業を無期限で休講することにした。創立15年を迎える同センターは、2000年11月から

学生への講義は中止されており、学校当局は今年中の再開は考えていないと発表した。キャンパスに学生はいないものの、エルサレムの名所の一つとなった建物は、見学ツアーやコンサート、日曜日の礼拝のためには開かれている。

ワシントンD.C.センターが奉献される

4月13日、ブリガム・ヤング大学はワシントンD.C.にある多目的ビルで、新しく改築されたミルトン・A・パーローセンターを奉献した。ブリガム・ヤング大学のワシントンセミナーの一部である同センターは、学生の宿泊施設として、また客員講師が学期ごとの学術プログラムに参加する学生に教える講義室として使われるほか、ワシントンD.C.における教会の国際・政府関係事務局として、また広報事務局、教会教育システムのインスティテュートハウス、独身成人支部としても使われる。□

違いを生み出す

手話手袋の発明者、10代の若者に
贈られる国際賞を受ける

科学に魅了された18歳のライアン・パターソンは、インテル・サイエンス・タレント・サーチにおいて1位に入賞し、世界の注目を集めた。この賞は、若者に贈られるノーベル賞と考えられている。

ライアンが1位を獲得した作品は、アメリカ手話のアルファベットをほかの人が読めるように小さなスクリーン上に文字変換する手袋である。これによって、聾者は手話通訳者を介さずに会話ができる。

国際コンクールでの最終選考において、ライアンは43か国から参加した1,235人の最終選考通過者と競い合い、3月にワシントンD.C.で行われた表彰式では大学への奨学金を授与された。

彼は、近々行われる科学博覧会に向

彼の発明品である、アメリカ手話を文字に変換しスクリーン上に映す手袋を見せるライアン・パターソン。彼はこの発明によって、国際的な賞を授与された。

写真/Associated Press社の厚意により掲載。



けて意義深いプロジェクトを見つけるように祈ったところ、この発明のアイデアを思いついた。レストランで、10代の聾者の女性が、通訳を介して注文するのにとても苦労しているのに気づいたことがきっかけとなった。

彼は母親のシェリーに、もっと効率的なコミュニケーション手段を作ってみようと考え

えていることを話し、数日後、発明品を母親に見せた。ゴルフ用の手袋に9つのセンサーを付け、それをラップトップコンピューターに接続した。急いでアルファベットの指文字を覚えた後、コンピューターに彼の手の動きを読ませ、それを携帯電話ほどの大きさのスクリーンに文字変換するようプログラミングした。

「息子はいい子で、いつも人の助けになりたいと考えてきました」とパターソン姉妹は語る。「彼は、生活を改善するために発明をしているんです。」

ライアンはアメリカ合衆国コロラド州グランドジャンクションステーク、グランドジャンクション第11ワードで祭司定員会第一副会長としての召しを果たしている。

Church Newsの厚意により、2002年3月30日付けの記事から掲載

夫婦で「すべての人を改心に導く」 召しにこたえる

ユタ北部更正福祉委員長であるE・ケント・パルシファーとジョアン夫人は、教会指導者が文字どおりすべての会員を心にかけていることを知った。「幹部がすべての人を失われることのな



E・ケント・パルシファーはこの10年間の多くの時間を、ユタ州北部更正福祉委員長としてジョアン夫人とともに働いた。夫妻は、すべての人を改心に導くようにという中央幹部の呼びかけは、文字どおりすべての人を指していることを知った。

写真/ピーター・チャドレイ

ようにし、改心に導きたい、と言うとき、それはほんとうにすべての人を指しています」とパルシファー兄弟は語る。

パルシファー夫妻は、これまでの10年間、何千時間も費やして、ユタ州刑務所に投獄されている教会員とかかわってきた。3月、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老と七十人のブルース・D・ポーター長老がパルシファー夫妻とともに、ユタ州刑務所で服役中の男女6つのグループおよびジェネシス少年院にいる若人を訪れた。

「皆さんは主にとってどんなに貴く、大切な方々でしょう」とバラード長老は彼らに語った。また、救い主の恵みの大切さとそれを自分の身に受けることについて話し、人が自分を変え、イエス・キリストに近づこうとすると、天の力を受けることができると語った。

バラード長老はまた、現在はイリノイ州ノーブー神殿で宣教師として働くパルシファー夫妻に対して賛辞を贈った。「パルシファー夫妻は何年にもわたってユタ州で犯罪者とかかわる中で、非常にすばらしい働きをされました。彼らの働きは、主の教会が何であるかを表しています。」

末日聖徒ファミリーサービスを通し

て、教会は希望する犯罪者に聖書やモルモン書、その他の教会出版物を送っている。教会はまた、全世界の神権指導者とともに、服役中の人々に対する働きかけを行っている。

Church Newsの厚意により、2002年3月30日付けの記事から掲載

世界中の子どもたちに人形劇を通して健康について教える

いきいきとした人形と力強いメッセージを通して、教会の福祉宣教師たちは世界中の子どもたちにたばこやアルコールの有害さについて教えている。

ブリガム・ヤング大学メディア芸術の教授であるハロルド・オークスによって考案され、創作された人形劇を使って、宣教師たちは学校や地域の公民館で健康講座を開き、子どもたちにアルコールやたばこの害を教えている。健康講座は数か国語に翻訳され、ガーナやグアテマラから、ルーマニアやジンバブウェに至る25万人以上の子どもや若者を対象に行われてきた。2001年だけでも、世界中の9万人近くの人々がこの健康講座に参加している。

ユタ州バウンティフルのロロー・ピーターソン、アイリン・ピーターソン夫妻は、この人形劇を最初に使った夫婦宣教師の中の一組だった。1997年、彼らが最



人形を使って子どもたちや若人にたばこやアルコールの危険性について教える専任宣教師たち。2001年だけで、世界中の9万人がこの人形劇を見た。

写真/ニール・K・ニューウェル

初に赴いた伝道地は南アフリカだった。イーストロンドンに着いた彼らは、学校や病院が彼らの健康講座に非常に関心を示してくれることに驚いた。

ほかの専任宣教師の助けも借りながら、ピーターソン夫妻は活動を開始した。平均して1日に2度の講座を開き、それを週4日行った。1年半の間に、南アフリカ、イーストロンドンの500以上の学校、診療所、図書館において5万人以上の若人が健康講座に参加し、アルコールやたばこの危険性について知らされた。

現在姉妹とともにほかの伝道地で働くピーターソン長老はこう語った。「わたしたちの講座によって、もしも1,000人に一人でもたばこを吸わないという決心をしてくれる人がいるとしたら、南アフリカの50の家族が、喫煙者がしばしば抱える苦しみから救われるでしょう。そして少なくとも5万人の人々が、以前よりも健康についての知識を持つようになったのは確かです。」□

Church News, 2002年3月23日付けの記事を基に編集

こんにち 今日の教え

みなさん 御霊に注意を払うよう勧告するパッカー会長代理

「皆さんの人生は皆さん自身のものではありません。然るべき生き方をするならば、皆さんは守られるでしょう。」ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理は3月12日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校のディボーションで学生たちに語った。

パッカー会長代理は学生たちに、御霊の導きや警告を受けられるような生活をするよう勧告した。パッカー会長代理

は自身の経験を交えながら、助けが最も必要なときに、御霊は行動を起こすよう促すことが多いと教えた。

パッカー会長代理は次のように述べた。「皆さんが生活するうえで、然るべき生活を送っていれば、霊的なことが起こるでしょう。」

パッカー会長代理は、スペンサー・W・キンボール大管長とともに1976年、合衆国アイダホ州南東部へ向かったとき



のことを語った。その地のティートンダムが決壊した直後の出来事である。「合衆国救急隊と協力してたくさんのことを行いました。救急隊の推定によると（ダ

ムが決壊した時間、人口、被害の規模から判断して)、5,000人の死傷者が出てもおかしくなかったということでした。しかし実際の死傷者は11人でした。どうしてでしょうか。警告を受けていたからです。大勢の人が、その日は異常に胸騒ぎがしたとわたしたちに語ってくれました。そのため、警報が出されたときに迅速に応じられたのです。」

生存者との集会で、「キンボール大管長はわたしに顔を寄せて言いました。『沈んだ顔をした人がいませんね。』見渡してみると、そのとおりでした。だれ

一人沈んだ様子の人はいませんでした。どうしてでしょうか。このような聖句があります。『備えていれば恐れることはない。』(教義と聖約38:30)」

パッカー会長代理は次のように勧告している。「御霊がどのように働くのか理解していれば、あなたは守られるでしょう。どんなに悪の力が結集しても大丈夫です。すべての悪の力が結集し、暗くて醜いレーザー光線のように、集中して襲いかかったとしても、皆さんを滅ぼすことはできません。自分を滅ぼすことを何らかの形で承諾してしまえば、話は

別ですが。」

パッカー会長代理は学生たちに知恵と理解力を求めるよう勧告した。そしてこのように述べた。

「その時が来たら、皆さんは反射的に、ほぼ無意識のうちに行動していることでしょ。考えなくても、聖なる御霊に促され、導かれたと分かることでしょ。……そのように皆さんは行動します。そして、後から振り返り、導かれていたと気づくのです。」

Church News, 2002年3月30日付けの記事から編集

地域社会を強める

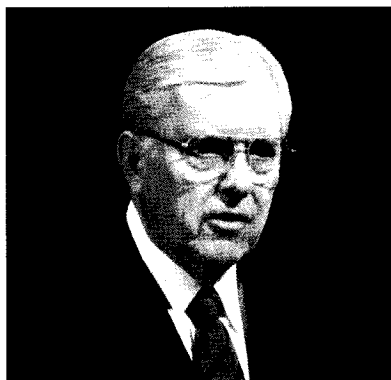
ヒンズー教寺院建設を支援する教会員

教 教会員はユタ州スパニッシュフォークのヒンズー教寺院建設のために労働力の提供、および経済的援助を行った。スパニッシュフォークのヒンズー教徒は寺院建設資金が不足していた。そのため地元の聖徒たちの働きかけにより、教会関連企業が寺院建設のための寄付をした。また教会員は寺院建築を支援するために、3,000時間無報酬で働いた。両教徒がともに働くことで、お互いに対する誤解や無知が一掃された。

ラトビアで援助をする教会

教 教会からの2万ポンド(約9トン)の人道救援物資が近ごろ、ラトビアの南東部国境付近の小さな都市、ダウガピルス市に到着した。物資は同市の多くの住民に祝福となると見込まれている。ダウガピルス市の住民の多くは1990年代初頭から職を失っている。□

弱点をなくすようにと勧告するバラード長老



主 はその子らに教義と原則を与えられた。子らが神の武具で身を固めるのを助け、悪の力に対抗して立てるようにするためである。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は3月3日、教会教育システム衛星放送で語った。

「わたしは、この霊的な武具が体にフィットする1枚の金属板だとは考えたくありません。もっと鎖帷子くさりかたびらに似たものだと思いたいのです。」鎖帷子とは、小さな鉄の板を幾つもつなぎ合わせ、防御力を失うことなく柔軟性を高めたよろいである。「何か偉大で包括的な行いが一つあって、それをすれば霊的な武具が身に着けられるというもので

はありません。」バラード長老はそう言い添えた。

バラード長老が特に言及したことによると、真の霊的な力は数々の小さな行いにある。それらがつなぎ合わせられて霊的な鎖帷子を作り、わたしたちをあらゆる悪から守り、保護してくれるのだ。

バラード長老はこのように述べた。「万一、矢が鎖帷子の鉄板の透き間に命中すれば、致命的な傷になります。自らを守る6つの方法を提案したいと思います。個人の霊的な武具から透き間をなくす方法です。」

その方法として、バラード長老は会員たちに次のことを勧告した。祈りの防御力に頼る。聖文の防御力に頼る。神の憐れみ深い恵みに保護を求める。道徳的に正しくあるよう注意する。試しの生涯けいけんをいたずらに過ごさない。敬虔さが啓示をもたらすことを忘れない。

「これらの事柄において、敬虔な態度を注意深く養うなら、皆さんの生活の中にある御霊の力と影響力は強められるでしょう。」このようにバラード長老は話を締めくくった。

Church News, 2002年3月9日付けの記事から編集

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年8月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2002年8月号に掲載の「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本誌「フレンド」12、13ページ「子どもたちの心」を参照する。

1. ほかの人が神殿で儀式を受ける手助けをするために、子どもたちが果たす役割について子どもたちが理解できるようにする。子ども一人一人に紙を1枚ずつ、そして紙人形を1体ずつ配る。(この紙人形は子どもをかたどった簡単なものでよい。)子どもたちに各自の名前を紙に書かせる。そして亡くなっている先祖の名前を紙人形に書かせる。(子どもたちが先祖の名前を知らなければ、「わたしのおばあちゃんのおばあちゃん」のように、その先祖と自分の続柄を書かせる。)紙人形に色を塗らせる。バプテスマを受ける子どもの写真を掲示する。バプテスマに関する歌か賛美歌を歌う。すでにバプテスマを受けた子どもたちに、各自の名前を写真の周りにはるように言う。これからバプテスマを受けるつもりでいる子どもたちに、各自の名前を写真の周りにはるように言う。

亡くなった人はバプテスマを受けることができないので、生きている人が神殿で彼らのためにバプテスマを受けなくてはならないことを説明する。12歳になり、神殿推薦状を持っていれば、亡くなった先祖や亡くなった人のためにバプテスマを受け、確認の儀式を受けられることを子どもたちに伝える。神殿のバプテスマフォントの写真を掲示する。各自の紙人形をその写真の周りにはらせる。神殿の写真を掲示する。神殿では、自分自身のエンダウメントを受けることができると説明する(『分かち合いの時間、ならびに聖餐会での子供の発表の概要2002年度』の用語集参照)。また家族との結び固めを受けることができると説明する。神殿に関する歌か賛美歌を歌う。バプテスマの写真の周りから名前を取り、神殿の写真の周りにはり直させる。こうして、十分な年齢になったときに神殿に行けるよう、ふさわしさを保つと決意を表すように言う。「エリヤが教えた真理」(『リアホナ』2001年10月号、フレンド、10-11)を歌う。各自の紙人形を神殿の写真の周りにはらせる。紙人形は、亡くなっていて、自分では神殿に行けない人々を表していると説明する。自分の先祖や亡くなった人々のために神殿の活動を行えることに感謝を

示す。家族が永遠に結び固められた祝福に対する気持ちを分かち合う。

2. 家族の記録が家族歴史を調べる人にとってどのように役立つか、子どもたちが理解できるようにする。モルモン書の中の一つの家族について、子どもたちに家系図を記入させる。黒板に父方の家系に従って7代の系図を書く。子の欄に「4ニーファイ1:21」、父の欄に「4ニーファイ1:19」、祖父の欄に「3ニーファイ1:2」と書く。その先の世代の欄に「ヒラマン3:20-21」、「アルマ63:11」、「アルマ31:1, 7」、「モーサヤ27:8」と書く。参照聖句を紙で覆う。別の紙にそれぞれ「アモス」「アモス」「ニーファイ」「ヒラマン」「ヒラマン」「アルマ」「アルマ」と書く。名前のカードを部屋中の壁に順不同にはる。子の欄を覆っていた紙を外す。子どもたちに参照聖句を見つけて、どの名前が該当するか分かったら手を上げさせる。一人の子どもにその聖句を声に出して読ませる。「アモス」のカードを1枚見つけ、参照聖句の上にはらせる。続けて参照聖句の上の紙を1枚ずつはがし、その都度聖句を読み、正しい名前を探し、家系図にはるのを繰り返す。世代が変わるごとに歌か賛美歌を歌う。

3. 年少の子ども向け活動。神権者7人を招待し、簡単な衣装を着てアルマから始まる7世代のロールプレーをしてみよう。その人物に関する物語が入手できれば、演じている神権者にそれぞれその人物の物語を話してみよう。(物語に関する情報は、聖文、『福音の視覚資料セット』、『初等協会4』を参照。)父アルマを演じている神権者に、話をする間モルモン書を手に持ってもらう。話し終えたら、いちばん上の欄に「アルマ」と書いてもらう。そしてモルモン書を息子アルマに渡し、同じように続ける。息子アモスが、モルモン書と父から子に引き継がれてきた知識が真実であると証するまで、繰り返す。□

〈翻 訳〉

2002年8月1日

アジア北地域の指導者および教会員の皆さんへ

基本指導原則

拝啓

「基本指導原則」は、2001年9月1日にアジア北地域会長会によって紹介され、アジア北地域の神権指導者に配布されました。さらに、「基本指導原則」は『リアホナ』2001年10月号にも掲載されました。わたしたちはそのとき、次のように述べています。

「……『基本指導原則』と題された資料が、当地域の指導者の指針となるよう願っています。神権組織と補助組織双方の責任において、すべてのレベルの指導者が、簡潔ながらも深遠なこれらの原則に従うよう望んでいます。わたしたちがこれらの原則を実践し、個人と家族が霊的な支援と啓発という雰囲気の下で祝福を受けるにつれ、日本と韓国の教会はいっそう力強く発展していくことでしょう。」

地域会長会として2年目を始めるに当たり、わたしたちはこれらの原則の重要性を明言したいと望んでいます。わたしたちは、これらの原則が、家族を含めて指導の各レベルにおいて実践されるとき、会員に霊的な強さが備わることを信じています。それはわたしたちが主の方法に従っているからです(教義と聖約104:16参照)。

わたしたち地域会長会は、証と目的と方向性において一致しています。わたしたちは、救い主とその栄えある福音について厳粛に証します。預言者が今日主の教会を導いていることを証します。そして、わたしたちは預言者と一致することを願っています。わたしたちは、聖なる御霊を受けるにふさわしくあり、それによって永遠にわたり重要な事柄に対し適切に力を注げるよう望んでいます。

敬具

アジア北地域会長会



ドナルド・L・ホールストロム

菊地 良彦

ゲーリー・S・松田

Amal H. Hallstrom
Gary S. Matsumoto

基本指導原則

アジア北地域会長会

わたしたちは主イエス・キリストを愛し、主に仕えます。

「それゆえ、わたしは彼らに戒めを与えて、このように言う。あなたは心を尽くし、勢力と思いと力を尽くして、主なるあなたの神を愛さなければならぬ。また、イエス・キリストの名によって、神に仕えなければならぬ。」(教義と聖約59:5)

「あなたはわたしを愛するならば、わたしに仕え、わたしのすべての戒めを守るべきである。」(教義と聖約42:29)

わたしたちは絶えず聖霊の導きを求めます。

「しかし、書き記されたそれらのものがあるにもかかわらず、聖なる御霊によって指示され導かれるままにすべての集会を執り行うことが、初めから常にわたしの教会の長老たちに指示されてきたし、またこれから先いつまでも指示されるであらう。」(教義と聖約46:2)

わたしたちは大管長会と十二使徒定員会に忠実に従います。

「彼らは、そこから先は途中で御言葉^のを宣べ

伝えながら旅をなさい。しかし、預言者たちや使徒たちが書き記したことと、信仰の祈りによって慰め主により教えられることのほかは何も語ってはならない。」(教義と聖約52:9)

わたしたちは一致します。

「あなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない、と主は言われました(教義と聖約38:27参照)。この大いなる一致とは、真のキリスト教会のしるしです。そして指導者への忠誠は、主の軍勢として仕えるすべての人々に求められるきわめて重要な事柄です。また、内わで分かれ争う家は立ち行かないでしょう(マルコ3:25参照)。一致は基本的かつ不可欠な事柄なのです。」(ゴードン・B・ヒンクレー)

わたしたちは会員に慈愛をもって仕えます。

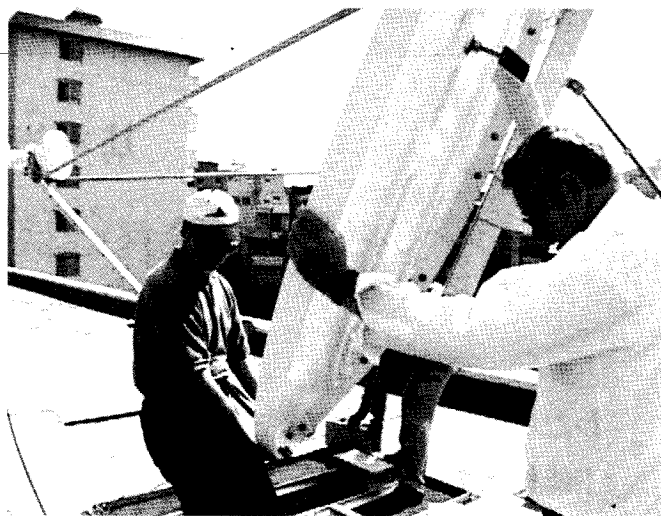
「人は謙遜であり、愛に満ち、信仰と希望と慈愛を持ち、また自分に任せられたすべてのことについて自制しなければ、だれもこの業を助けることはできない。」(教義と聖約12:8)

2001年9月1日



全世界の聖徒とともにホサナ

～日本初、衛星放送によって行われた
イリノイ州ノーブー神殿奉献式～



大阪府茨木市の大阪北ステーキセンターに設置された
衛星放送受信用のパラボラアンテナを、静止衛星の方向にセットするため
微妙な調整を繰り返す外国人技術者たち。

2002年6月27
日から4日間

にわたり、イリノイ州ノーブー神殿の奉献式が、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の管理によって執り行われた。この神殿は、1846年、迫害によってノーブーを追われた末日聖徒たちが奉献したばかりのノーブー神殿を放棄させられてから、実に156年ぶりに再建を果たしたもので、教会歴史上画期的な出来事と言える。

それは同時に、ここ日本においても画期的な出来事となっ

た。同29・30日、日本の教会初の衛星放送により、ノーブー神殿の奉献式は全国9か所—札幌・仙台・東京・町田・名古屋・大阪・岡山・福岡・沖縄のステーキセンターに向けて中継され、アジア北地域では、日本で延べ1万1,605人、韓国で延べ4,066人が奉献セッションに参加したのである。

奉献式の間、それぞれのステーキセンターの建物は神殿と見なされた。奉献式用の神殿推奨状を受けた8歳以上の教会員が集う中、地球の反対側から送ら

れてきた電波によって、ノーブー神殿奉献式の模様が鮮明に映し出された。ヒンクレー大管長は奉献式の始めに当たり、この儀式が「アジアの一部とフィリピン」に初めて中継されているこ

とを述べた。大管長の言葉のとおり、日本・韓国・フィリピンを含む全世界の聖徒たちが、衛星放送という現代のテクノロジーの恩恵を受けて、歴史的なノーブー神殿の奉献を見守った。□

歌声で届けた福音～福岡で姉弟デュオ「rua」特別コンサート～

梅 雨の中休みの気候もすがすがしい6月8日、福岡ステーキ藤崎ワードでは、空模様にもふさわしくさわやかな歌声のコンサートが開かれた。歌ったのは福岡伝道部の専任宣教師、クリントン・ストローザ長老と、横浜から駆けつけた姉のクリスティ姉妹である。

二人はニュージーランド出身、

幼いころから両親とともにファミリーバンドで歌ってきた。特に父親の影響で50年代から80年代の音楽をレパートリーとし、姉弟デュオ「rua」を結成。その経歴が認められて1998年よりNHKのテレビ番組「青春のポップス」にレギュラー出演するなど、プロの歌手として活動していた。

「家族の大切さを伝えたい。わたしたちを幸せにしてくれたメッセージを歌にして贈りたい。」——デビュー当時の動機そのままに、弟のクリントン兄弟は現在歌手活動を中断、歌を言葉に換え、福岡伝道部の専任宣教師として日々福音のメッセージを伝えている。

この日藤崎ワードを満杯にした200人ほどの聴衆のうち、約半数が一般の人々であった。

「イエスを十字架につけると、手に釘を打ち込むハンマーをわたし自身も握っていたというこ

とを忘れてはなりません……」『His Hands』というこの歌を歌うとき、わたしたちが臆（おそ）ってくださった主に対する感謝の念が歌に十分込められるよう、また人前で決して声を詰まらせることのないように、クリスティ姉妹は涙が溢（あ）れるまで何度も何度も練習を繰り返したという。

歌と歌との間には、彼らの母親が日本で伝道したことや、幼いころ子守歌を日本語で歌ってくれたこと、亡くなった弟とまた天で再会できると信じていることなど、家族についての心温まるエピソードも語った。

伝道部長の指示により、宣教師のストローザ長老らがこの日に歌う曲は賛美歌、子どもの歌、または教会的な内容のもののみ、という制限が付けられていた。一般の聴衆にとって期待外れになるのでは、との懸念をよそに、コンサートは会場は温かい雰囲気

に包まれていた。キリストを証（あかし）する二人の歌が続くうちに、初めてこの教会を訪れた人々にも御霊（みたま）の平安な思いが伝わっていった。ある来訪者アンケートにはこう記されている。『とても感動しました。ハンカチが必要。モルモンの宣教師からいつも、家族を大切にする温かいのを感じます』『わたしの年の半分もない人がなぜここまでなれるのか、クリスチャンでない日本人には理解が難しいかもしれません。宗教は分かりません。でも感動しました。』

この日訪れた来訪者は全員、帰りにバス・アロングカードを1セットずつ手渡されて会場を後にしたのであった。□

（レポート：坂田浩美姉妹、石井健也兄弟）



練習時間がほとんどないにもかかわらず、息のあった歌声を聞かせた「rua」のストローザ姉弟。



藤崎ワードを埋め尽くした聴衆。

友情を育てたソルトレーク・シティー・オリンピック

2002年6月12日にアジア北地域会長会会長のドナルド・L・ホールストロム長老と広報宣教師のM・トム・清水長老・順子姉妹が、日本オリンピック委員会(JOC)会長の竹田恒和氏と国際部長の大山哲夫氏のもとを訪問した。竹田会長は「日本で伝道した経験を持つ日本語の上手なボランティアが多いのには驚きました」とソルトレークの第一印象を語った。また「ケント・デリカットさんが24時間体制でわたしをサポートしてくださり、大会期間を通じて良い友人になることができました」と感謝の言葉を述べた。ホールストロム長老は

「オリンピックは教会の活動ではありませんが、善い市民として参加することが望まれていました」と話し、「今後のオリンピックでも、わたしたちの教会で助けられることがあればお知らせください」と伝え、多くの教会員のボランティアによって支えられていたことも紹介した。

竹田会長とホールストロム長老の話題は、岩倉使節団と教会との出会い、教会が土地を提供したメダルプラザ、世界中で働く約6万人もの宣教師にまで及び、30分もの会見となった。

十二使徒のペリー長老、元地域会長会会長のブラウン長老ら



談笑するホールストロム会長と日本オリンピック委員会会長の竹田恒和氏。(右)

と会食した思い出を語る竹田会長は、ソルトレークに滞在した1か月間を振り返り「美しい町と友好的な人々」という好印象を持ったという。

ホールストロム長老は、「社会の中で影響力のある人々、尊敬される人々と会って友好を深め、さらには、わたしたちがどのようなものであるかを知ってもらうの

はとても大切です。わたしたちや教会に対する正しい理解を持った人々が増えることは、すばらしいことです」と話した。

ホールストロム長老からは、教会について紹介された写真集、日本伝道100年史の書籍、タバナクル合唱団のCD、広報用資料が贈られ、竹田会長からは、JOCのピンバッジと旗が贈られた。□

現代の岩倉使節団、ソルトレーク・シティーへ～明治神宮青年海外研修視察団～

明治天皇を祭る明治神宮(東京都渋谷区代々木)の鎮守の森は、大正9年(1920年)に寄贈された10万本の苗木を全国の青年たちが植樹して作った人工の森である。80余年を経た現在、それは東京都心を占める広大な森となっている。

この代々木の杜80年を記念

して2000年から明治神宮が運営している「ユースクラブ響」という青年教育団体がある。学生を主体とする会員は必ずしも神道の信者ではないが、植樹などのボランティア体験やシンポジウムの開催などを通じ、日本の自然と文化を学んでいる。

その多彩な活動の一環として、

「明治神宮青年海外研修視察団」がある。かつて明治天皇の命により世界中を視察し、1872年にはソルトレーク・シティーも訪れた岩倉使節団の流れをくむもので、これまでインド(ヒンズー教圏)、トルコ(イスラム教圏)、イタリア(キリスト教圏)など異文化の地を訪れてきた。昨年はアメリカのソルトレーク・シティーをも訪問する予定であったが、渡米直前の9月11日にニューヨークで同時多発テロが起きたため急きょ、中止されたのであった。

現在、明治神宮宮司を務める外山勝志氏は、1970年代にソルトレーク・シティーを訪れた。その際に、祖先を敬い、信仰に根ざした戒めと道徳基盤のつと

って暮らしている末日聖徒の人々と出会い、感銘を受けたという。日本では昨年、そうした暮らしの姿がまねになりつつあることから、外山宮司の強い推薦を受けてソルトレーク・シティー訪問が計画された。

「明治神宮青年海外研修視察団」アメリカ班は、19人でこの9月にソルトレーク・シティーを訪れる予定。現地では教会本部への表敬訪問と中央幹部との懇談、教会歴史の学習、施設の見学、またブリガム・ヤング大学の学生や教会員との交流(信仰に根ざした生活を学ぶ)、人道的援助センターにおけるボランティア実習などを行いつつ、日本の文化を伝えるという。□



ホールストロム会長の部屋を訪ねた明治神宮権禰宜の間島善史氏、視察団を引率する研究員の今泉宜子氏、権禰宜の江馬潤一郎氏(左から)。

全国高校生英語スピーチコンテストの予選大会が始まる

11月2日(土)に東京/吉祥寺の教会堂にて本選大会が開催される「ブリガム・ヤング大学(BYU)ハワイ校/第4回全国高校生英語スピーチコンテスト」の予選大会が、全国各地でスタートした。すでに3地区での予

選大会が終了し、他地区でも全国大会出場を目指した高校生のスピーチが9月から10月にかけて行われる。残る11地区の予選大会はまだ応募が締め切られておらず、詳細や応募用紙はホームページからも入手できる

(<http://one.pobox.ne.jp/byu.html>)。全国大会での優勝者はBYUハワイ校のサマースクールへ招待される。なお、過去3回の全国大会での教会員の優勝者はいない。□



2002年度の大会パンフレット。

夏休み まだ間に合う! 親の宿題帳

「夫婦は……子供たちに対しても愛と関心を示すという厳格な責任を負っています。」(『家族——世界への宣言』)

……しかし、親も子どもたちもそれぞれに忙しい日常を送っている日本の家族。

子どもが家にいる夏休みこそ、

親子が腰を据えてコミュニケーションを取る絶好の機会です。

休暇を取って出かけるのもいいけれど、

日常のささやかな工夫で今日からできることもあるのでは?

子どもとのコミュニケーション術や

夏休みの過ごし方のアイデアを

日本各地の教会員の声から拾いました。

「1901年に最初の4人の宣教師が横浜に到着してから100年が過ぎました。日本の教会の開拓者の足跡をたどるのは子どもたちに自分の信仰を確認させる意味でも大切だと思います。エンプレス・

オブ・インディア号

が到着した山下公

園近くの港から、

宿泊したホテル跡、建立された山手ワー

ドのモニュメント、奉献の祈りをしたと

思われる鷺山近辺などを当時の写真を

頼りに子どもたちと歩いてみたい。きつ

と魅力ある散策になると思います。」

日本の教会歴史ツアー。

「子どもたちに自由な時間がある夏休みこそ、モルモン書の読破にチャレンジさせたいと思っています。子どもだけに読ませるのではなく、親も一緒にチャレンジします。部屋を片付け、テレビをつけず、少しでも御霊を感じられる空間を作ることに配慮します。毎日少しずつ読んでいる聖文学習とは異なり、時に短期

間に集中して達成感を味わうのも楽しいチャレンジでは。もし可能ならば、1日ぐらいは自然の中へ出かけて、ジョセフ・スミスが聖なる森で祈りをささげたことなども黙考しながら読んでみたいと思います。

ちなみに冬休みには、教義と聖約を3日間で読み終えました。」

●ほかのある家族では、家族全員4時半起床、5時まで聖文、子どもたちは5時20分に家を出て6時から教会で早朝セミナー。これを夏に限らず通年、毎日続けているとか。お母さんいわく、「確かにきついですがね。でもわたしは3時半に起きるんです。子どもたちは母親が3時半からお弁当や朝御飯を準備していると知っているんですね。で、それがあるので嫌とは言えないという……。」そして一言。「子どもたちに何かを要求する場合は、親もそれ相応の犠牲なり何なりを払っていることを見せる必要があります。」……説得力、あります。



「JRの青春18きっぷを利用して父子でゆっくりと里帰りを楽しみました。親子で時刻表を確かめながら何回も列車を乗り継ぎながらの旅は、まさに小さな冒険です。夜中までかけて移動しながら、父と子の濃密な時間を過ごすことができました。

我が家の子どもとの過ごし

方は、質を語る前にまず

量(時間)を確保するとい

うことです。財布のひもはしっかり締めて

も、時間を少しせいたくに使えば、毎年

恒例の里帰りが子どもとの冒険旅行に早

変わりしてしまいます。」

●この話のポイントは——「お金より時間。」

幼い子どもはお金をかけた旅行よりも、親

が100パーセント自分の方を向いてくれる

時間を望んでいるのかも……。

小さな冒険旅行。

「子どもたちは(試験や夏休みの宿題を抱えているときなど)見たいテレビやビデオを我慢していますよね。それが終わった週の土曜日の夜には部屋を真っ暗の映画館みたいにして家族みんなではべーっと見る。カウチポテトみ

たいにして……。う

ちではテレビ一つ

にしても、みんなで見るのだったら認めよう、というルールがあります。テレビゲーム禁止について話したとき、同じ娯楽じゃないか、と……(子どもが言う)。それに対して主人は、健全な娯楽と健全でない娯楽……といったら語弊がありますけれども、コンピュータ機械と自分だけの1対1じゃなくて、家族全員がそれに取り組めるような、だれも疎外感を抱かないもの、それが家族の活動として大事だ、と。」

●宣教師が決して一人にならないのは、一緒にいることによって守られるから。子どもたちは、そうかあ、と言って納得せざるを得なかったとか……。

「最近は少し郊外へ行けばサイクリングコースが設置されています。自動車がまったく入って来ないので安心して自転車に乗ることができます。どこまで走るのが、昼食はどこで取るのか……子ども自身に簡単な計画を立てさせ、親子で出発しました。自転車に水筒を付けて出かけるだけでも、子どもたちには冒険に感じられるようです。日が昇り始める早朝に走り出し、子どもをリーダーにして先導させ、ゆっくりと子どものペースで走ります。ささやかな距離ではあっても、親子で普段以上に語り合い、一つのことを一緒に達成したという楽しい思い出が残りました。知恵の言葉を守ることでも体力も祝福されていることを教える良い機会ともなりました。」

●この話のポイントは「子どもが計画すること。いつも親が何を、どこに行く、と決めていることへの逆転の発想。少々無理な計画でもあえて反対せず、実行してみせると、計画性や自立心が養われるかも？」

●この話のポイントは「子どもが計画すること。いつも親が何を、どこに行く、と決めていることへの逆転の発想。少々無理な計画でもあえて反対せず、実行してみせると、計画性や自立心が養われるかも？」

みんなでやる、というルール。

「子供たちの心をその父に……」

子どもが決める、一日。

小さい子どものいる家庭から——「お弁当を持って出かけ、子どもたちの案内で、普段よく遊んでいる友達の家、公園、秘密基地などを回る、ご近所探検ツアー。遊び場の危険箇所チェックも兼ねて。」

「義父は陶芸が得意なので、帰省の折、子どもたちは陶芸を教えてもらいました。息子は焼物のできるまでを自由研究にして、学校で発表しました。今までは自分の趣味に生きてきた義父も、その経験をまとめて発表した息子のノートや発表の様子ビデオを見ることで、以前よりも子どもたちに関心を寄せてくれるようになり

ました。先日

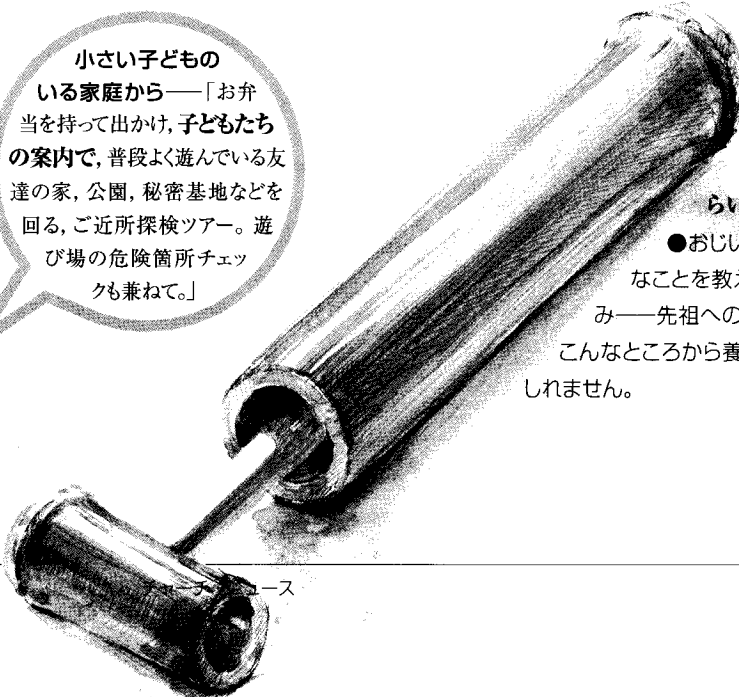
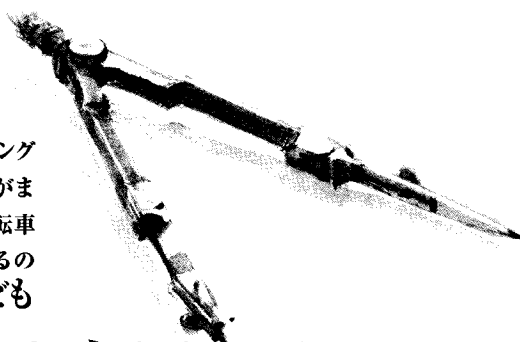
息子が作った茶碗が壊れてしまいま

したが、かつてないほどに落胆していました。この経験で息子には「物を大切にする気持ち」が少し芽生えたようです。折にふれて「おじいちゃんがね……」と言うことも増え、普段一緒に住んでいない義父の興味のあることを知り、また一緒に作り上げる体験を通して、息子は義父を身近に感じる事ができたようです。

一方、わたしの父は、子どものころに模型飛行機の大会で入賞したことがあったので、娘と一緒に模型飛行機を作ってもらい、これも自由研究として発表しました。その際、「おじいちゃんは昔、水泳がうまくて、国体の選手にも選ばれたんだ

よ……」とか、昔の賞状など見せながらいろいろな話をしても

●おじいちゃんの得意なことを教えてもらう夏休み——先祖への思いは案外とこんなところから養われるのかもしれない。





食事の支度、という原風景。

「子どもたちは意外と父親がどのような仕事をしているのか知らないものです。あまり関心もなく、父親の職場を訪れたこともないのではないのでしょうか。そこで夏休み、父親がどのように仕事をしているのか実際に見学する、授業参観ならぬ職場参観をしています。一緒に通勤し、仕事の様子を見学させ、昼食を共にします。職場で了解を得ることで、自分の家族に対する考えも同僚に知ってもらうことができます。子どもたちが父親の仕事を理解して、多少は尊敬の気持ちでも持ってくればありがたいです。」

職場参観。

●アメリカでは子どもが親の職場を訪れるのは比較的普通のことですが(右ページ参照)、日本人の職業観には「公私混同」を嫌う文化もあって、自営業でもないかぎり、なかなか子どもに親の働く姿を見せることはありませんでした。しかし昨今の、文部省(当時)審議会答申という資料には、親子のきずなを強めるために、「父親の職場参観や仕事の疑似体験など、子どもたちに親の働く姿を見もらう機会を提供する……」と提案されており、文部科学省の推進を受けて、全国の数多くの自治体で「親の職場参観会」が夏休みに開かれています。例えば、平成12年の静岡県庁では県庁職員の子どもたち202人の小学生が参加して、親と一緒に通勤し、仕事を体験しました。民間企業でも徐々に「職場参観」をするところが増えてきています。

「夏休みを利用して、教会の庭の手入れや教会堂の清掃を親子で行います。カーベットの染みを落としたり、年月とともに傷んだイスを修理したり、ペンキのはげた壁やドアを修繕したりするのは時間のかかる作業ですが、少しの努力で教会堂は見違えるほど整えられます。普段自分たちが使っている教会堂を美しくすることによって、主の宮に対する敬虔さを学び、大切に使用する気持ちも養うことができます。アロン神権者の奉仕の一環として、子どもたちにはバプテスマフォントも洗わせませんが、暑い夏に、ぬれながらフォントを磨くのは、子どもたちにとってはけっこう楽しい作業のようです。」

バプテスマフォント磨き。

小さい子どものいる家庭から——「まとまった休みの度に、子どもの友達数人を選んで「お泊まり会」をしています。友達も末日聖徒の家庭のルールや宗教を体験できます」というお勧めもありました。

ワザあり、の神殿参入。

「夏休みには毎週一つの料理を息子たちに教えます。一緒に料理を準備することが、母親と息子たちの語らいの場にもなり、将来伝道へ出る備えともなります。家事は日ごろから手伝わせていますが、それが宣教師への備えとどう関係するか意識的に伝えることで、何げない家事への見方が親子ともに随分と変わってきます。同時にアロン神権者の「神への務めを果たす」課題の一つに取り組んでいることにもなります。」

●ほかの家族からも寄せられました。「料理の下ごしらえを分担してもらいます。玉ねぎの皮むきとかきぬさやの筋取りとか、簡単に時間のかかるものを。一緒にできて、母親も助かって、ついでに一緒に話もできるので、お勧めです。」親子と一緒に野菜に向かう姿、さりげない会話……そこには家族の原風景といった温かく懐かしい趣があります。

「東京近郊のワードの青少年の活動として、夏休みに東京神殿参入を計画しました。青少年たちはその前日、副監督の家に集まり、副監督の息子2人を含む男の子5人は庭に張ったテントで、女の子4人は家の中に泊まりました。副監督による神殿についてのレッスンなど様々なプログラムの中、普段と違う雰囲気、特に男の子たちのテントからは、夜更けまで語り合う声が絶えなかったとか。翌日は早朝セミナーの後、全員で死者のためのバプテスマに。普段ワードで顔を合わせていても、お泊まり会というのは特別なものよう。夏休みならではの活動です。」

●青少年の神殿参入に、「お泊まり会」という一ひねりを加えたのがミソ。



広報宣教師
M・トム・清水
長老夫妻が語る
アメリカの夏休み

アメリカでは子どもの夏休みは3か月もあります。ですからどう過ごすかは大きな課題ですね。ユタでは、夏には7月4日の独立記念日、7月24日の開拓者記念日など大きな催しが幾つかあります。独立記念日にはワードで早朝から集まり、スカウトが国旗掲揚をして朝食会を開きます。開拓者記念日には市を挙げて大きなパレードがあります。教会員であるなしを問わず、地域社会の人々が一緒に参加して大がかりな山車を作ります。そのほか、ワードで催される父と子のための一泊野外活動、またスポーツクラブのキャンプ・ステーキの青少年のスーパー活動・ボーイスカウトのキャンプ(それぞれ1週間ほど)もあり、親が送り迎えをするほか一部の活動に参加もします。ユタのワードで青少年の責任を受けていたときには、若い人たちとよくラフティング(ゴムボートでの急流下り)にも出かけました。夏中をとおして教会の活動の中に親子で過ごせる機会がたくさんあります。

父と子の時間

わたしはかつて政治家として、市と州の中間規模、幾つかの市や郡を束ねたカウンティという行政区の3人の長の1人として働きました。アメリカの選挙は2年ごとで、3月から選挙運動が始まり11月に投票します。わたしたちの選挙運動はほかと違ってユニークで、特に夏はお祭りのように楽しい……いえ、最初の2、3回は楽しいです。4回、5回となると疲れてきます……(笑)。様々な宣伝方法を使います。マスメディアはもちろん、支持者の家の庭の芝生ごとに、名前を書いたブラカードを何千と立てたり、フリーウェイ沿いに約10メートル幅の大きな看板を立てたりします。表現にも工夫を凝らします。最初のときは、とにかく知名度を上げるためにただ、「What is a Shimizu?」(清水とは?)とだけ記しました。車

やレストランの名前なのか、企業名なのか……ポスターを見たユタ渓谷の住民たちは一斉に推測ゲームを始め、おかげで知名度が随分上がりました(笑)。次の選挙では映



画 スター・ウォーズ

のパロディで「Return of the Shimizu」……(笑)。またスポーツイベントなど様々な集いへ出かけて「おみくじクッキー」(通常、中に運勢を占う紙片が入っているクッキー)を配ったりもします。クッキーの中に政治的メッセージを書いた紙が入っているのです。そんな選挙運動を通じて、息子たちは芝生用ブラカードの組み立て、クッキーやちらし配りなど、わたしを応援して一生懸命手伝ってくれました。家族を挙げて父親を支えるというのはアメリカの一般的な考え方です。かつて高齢者向けマンションの会社を経営していたときは、息子たちを夏休みにアルバイトとして雇い、広い敷地内の芝生の手入れをさせました。そのようにして、子どもたちは父親の事業を知り、親への理解が生まれます。

また我が家では、教会でも勧められていることですが、月に一度は子どもたち一人一人を家の一室に呼んで、「父親の面接」の時間を持つようにしました。学校のこと、教会のこと、道徳的なことも含めて個人的なこと、人種偏見のこと……父と子の二人だけで様々なことをじっくりと話します。そこで何が話されているかは母親も知りません。



清水ご家族。左から、四男のジョシュア・義兄弟、長男のティモシー・順一兄弟、清水長老、順子姉妹、二男のスコット・勝兄弟、三男のマーク・政秀兄弟。

楽しい時間をともに過ごし、思い出という財産を共有する

アメリカのほとんどの人は夏に1週間から2週間の休暇を取ります。わたしたちは忙しいときでも1週間は家族旅行に出かけました。それは社会勉強の機会でもあります。事前に家庭の夕べで計画を立て、行き先について勉強し説明します。カナディアンロッキーへ行って氷河を見たり、イエローストーン国立公園、フロリダのケネディ宇宙センターやワシントンD.C.など様々な所へ出かけました。その間はキャンピングカーを借りて24時間家族とともに過ごします。道中は、話し合ったりけんかしたりしたことも含めて、学びの機会やきずなを強める時となりました。

かつて日本中央伝道部の部長として働いたときは、土曜日の半日は子どものための時間と決めて、もっぱら子どもと過ごしました。公園に

行ったりスポーツをしたり……。また後に、青少年になってレスリングなどのスポーツをしていた子どもたちの試合には、必ず家族全員で応援に行くことになっていました。

応援するこちらまで体に力が入って、一緒にレスリングをしているようでした。

そうした親子で楽しんだ経験をたくさんの写真や映像に残してあります。昔はビデオなどなかったので、8ミリのフィルムです。アメリカの家族はよく家族の集まり(比較的近い親族だけのものから一族数百人に及ぶ集まりまである)を開きますが、そうしたときに皆で昔の写真やフィルムを見るのも楽しみの一つです。

親子がともに過ごして楽しい時間を共有し、家族としての思い出を作る、そして家族の記録を作るのは大切なことです。それは永遠にかけがえのない家族の物語を作っていくことなのです。(談)□

たとえ忙しくとも……ある家族では——「用事が重なって、長女のコンテストの日にだれも行けなかったとき、家族全員で長女のために断食しました。弟たちは炎天下のスカウト活動に参加していて水も飲みませんでした。子どもにとって大事な日にたとえ家族が来られなくても、自分のために断食してくれていると感じる……家族のために祈ったり断食したりして、いいなあと思います。」